

## 2. 教育委員会と大学の連携協力による 課題探究型研修カリキュラム開発

### —10年経験者研修モデルカリキュラムの提案—

岐阜大学教育学部教員研修計画委員会委員長	石川英志
同 副委員長	松永洋介
岐阜大学総合情報メディアセンター	加藤直樹
同	益子典文
岐阜県教育委員会教育研修課研修企画監	大平高司

#### はじめに

岐阜県教育委員会と岐阜大学教育学部は、これまで教師教育に関する連携協力のもとに教員研修システムの構築に取り組んできた。

10年経験者研修が制度化された平成15年度から、岐阜大学教育学部は岐阜県教育委員会との連携協議のもとに、同研修の一部を担当し、企画運営の改善を継続的に図ってきた。岐阜県内の小・中・高・特別支援の各校種の対象教員を、現職教育内地留学生として受け入れ、長期休業期間中研修5日間を中心に、個々人の課題意識との照合によって学部ほぼ全教員の設定する少人数ゼミ形式の研修コースに振り分け、研修教員一人ひとりの課題の設定や探究を支援している。この取組は、教師の自律を支える「受ける研修から求める研修へ」の教員研修像の転換を図るものとして、独立行政法人教員研修センター委嘱研究「教育委員会と大学の連携協力による課題探究型研修カリキュラム開発」として採択され、平成18・19年度の2カ年にわたって、10年経験者研修モデルカリキュラムの開発・実施・評価・改善の研究を推進してきた。数多くの課題が残されているが、ここにこれまでの実践とその考察を踏まえて、教育委員会と大学の連携協力に基づく教師の課題探究を軸とする10年経験者研修モデルカリキュラムを提案するものである。

はじめに、このカリキュラムの特徴を挙げる。①研修教員の自律的課題解決的な探究を支援する場として大学研修の少人数ゼミ形式を位置付ける。②教職経験10年の発達段階に対応した研修教員の多様な課題意識に基づく研修を実現可能とするために、大学の人的物的リソースを活用し、学校教育の広範な分野にわたるカリキュラムを準備する。③教育委員会と大学の連携協力に基づき、研修の諸段階（基盤整備・計画実施・評価改善）において相互の役割や機能を有効に活用する運営体制を開発する。④教育委員会と大学の共同による教員研修改善ワーキング等を実施し、カリキュラムの目標の共有や改善発展を図る。

## I 開発の目的・方法・組織

### 1. 開発の目的

#### (1) 目的

教育委員会と大学の連携のもとに、教職経験10年の発達段階に対応して、従来の「受ける研修」から「求める研修」へと研修像の転換を意図した研修カリキュラムを開発し、研修教員の自己探究プロジェクト能力の形成を目指す。

#### (2) 目的の背景

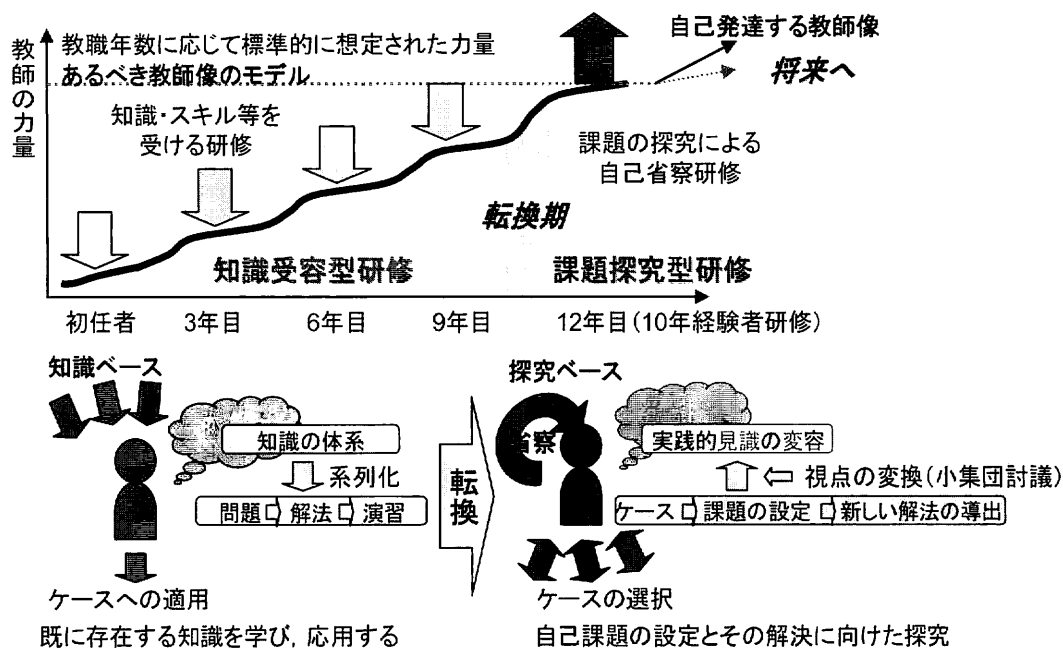
##### —教職経験10年の発達段階に対応した研修の基本的性格—

はじめに、10年経験者研修にこれから臨もうとしている一人の研修教員の記した文章の一部を引用しておきたい。この段階にある教師の内面的な状況をよく表わしている。

「教員生活も12年目（※岐阜県では教職経験12年目の教員を対象に、10年経験者研修を実施しているため、「12年目研修」と呼んでいる）を迎え、大体のことは自分の思うようにできるようになった。『自分の思うように』というのは、自分の思い次第で如何様にもできるということで、なんだか最近、授業時間の10分前に、慌てて指導書を広げて授業に臨むことも少くない。恐ろしいことである。……（中略）

『思うようにできる』からこそ、どう思うのか、どういう姿勢で臨もうとしているのかで先が決まるということなんだな。……自分のいい加減さを反省し、自分は何ができて何ができないかを自省する日々だった。自省の結果分かったことは、『大体のことはできる』と思っていた自分は、実は『どんなことも大体しかできない』自分であったということである。……もう一度教師としての修行のやり直しだ。こうして私の12年目研はスタートした。……」

教職経験10年とは、若手から中堅にさしかかる段階と言ってよいだろう。学校における様々な役割を一通り担い、成功や失敗等の感情に彩られた数多くの実践を積み重ねてきたことに基づく自信や安定した自己像、学校の中核としての活躍に対する周囲の期待等に基づく自己発達を実感している。しかしその一方で、授業のパターン化や学校生活のルーティンを通しての硬直化、子どもとの距離感の拡大等に基づく自己の発達停滞への不安も進行してきている。このように、熟達や成熟といった右上がりの変化だけでなく、硬直化や惰性も照らし出し、それらと向き合うことが、10年経験者研修の重要なポイントとなる。言い換えれば、教師として必要とされる知識や技法の修得を積み重ねる研修（知識受容型研修）から、自らの教職経験を振り返り、自分にふさわしい目標や課題を設定し、新たな探究を始める研修（課題探究型研修）への重点移動が求められている（図1）。10年経験者研修は、教員研修のこうした転換点に位置しているのである。しかし実際には、自らの経験の振り返り（自己省察）を避けたい気持ちが優先し、弁明に終始しやすいことも確かである。それだけに、周囲に位置する人々（校長・教頭、教育委員会指導主事、大学教員等）がどのようなスタンスで係わり、サポートするか、その在り様が、研修教員が前向きに踏み出すための重要な契機となり、拠り所となりうる。



【図 1 知識受容型研修から課題探究型研修への転換】

## 2. 開発の方法

### (1) 開発の諸段階の全体像

研修カリキュラムの開発の諸段階の全体像を表 1 によって示す。縦軸に、①基盤整備段階、②計画実施段階（省察準備期・計画期・課題探究期・適用期）、③評価改善段階を設定した。横軸に、各段階に対応した教育委員会及び大学それぞれの立場で取り組む事業内容、両者が連携して取り組む事業内容を記した。

①基盤整備段階…研修教員の個々の課題探究を支援する研修システムを構成するためには、教育委員会による研修の企画段階から、人的物的に豊かなリソースを持つ大学の参画が大きな決め手となる。10年経験者研修を業務内容とする部局あるいは専門委員会を両者それぞれに設置し、研修の全体（目的・内容・方法・評価等）にわたって協議する場を持ち、その過程を通して連携協力システムを構築していく（このシステムについては後掲の「3. 開発組織」で言及する）。

②計画実施段階…さらに 4 期に分けることができる。

省察準備期…校長は、研修教員に対する評価案並びに研修計画書案を教育委員会に提出しなければならない。この前提のもとで、研修教員がいかに自己を振り返り、新たな学びへの意欲や展望を持てるようになるか、そのために校長としてどのような支援ができるかということが、課題探究型研修の出発点のポイントとなる。したがって、評価案並びに研修計画書案の作成に際して、校長が研修教員と面談を行い、研修教員が研修に前向きに取り組むように導くことが重要である。評価項目の設定・検討、研修計画書の枠組みの設定・検討、面談方法の検討・改善は、この段階における教育委員会の業務事項であり、大学との協議事項となりうるものであ

【表1 研修カリキュラムの開発の諸段階とその事業内容】

	連携事業内容	教育委員会事業内容	大学事業内容	
<b>基盤整備段階</b> 教育委員会と大学の連携協力体制の整備	教育委員会と大学がそれぞれに10年経験者研修を担当業務とする部局あるいは専門委員会を設置し、連携協力体制を整備する。	10年経験者研修の目的・内容・方法・評価・システム等を課題探究型研修の実現という視点から構想する。	教育委員会と大学の連携協力による教員研修の有効性や課題を分析し、連携協力体制のモデルを構築する。	
<b>計画実施段階</b>	<b>省察準備期</b> 研修教員による自己省察と、それに基づく実践課題や見通しを位置付けた校長による評価案及び研修計画書案の作成	教師の生涯発達の視点から10年経験者研修の目的を捉え、知識受容型から課題探究型への転換を遂行するための評価票並びに研修計画書の枠組み、研修教員と校長の面談方法等について協議する。	評価票における評価項目の設定、研修計画書の枠組みの設定、研修教員と校長の面談方法の検討・改善等を行う。	
	<b>計画期</b> 教育委員会の決定による研修教員の評価及び研修計画書に対応した課題探究型研修を支援する研修コースの企画	研修教員に対する10年経験者研修のオリエンテーションを教育委員会と大学の共同によって行う。研修教員から提出される大学研修コースの希望選択の振り分け調整を行うに際して、教育委員会と大学の間で意見交換と協議を行う。	校長より提出された研修教員の評価案及び研修計画書案を検討・修正して決定する。研修教員の課題意識や関心等の動向を分析し、その情報を大学に通知する。大学研修のコースメニューに対する研修教員の希望選択の振り分け調整を行う。	大学研修の目的、方法、システム等の設定や整備を行い、研修教員の多様な課題意識や関心に対応する研修コースメニューの準備を進める。こうした企画や情報を教育委員会に提示すると共に、大学HPIに掲載し、研修教員の照会に対応する。
	<b>課題探究期</b> 研修教員による、大学研修を中核とする自己研修の場や機会の開拓・活用に基づく課題探究	大学研修を教育委員会から大学への委託ではなく、共同事業として捉え、研修教員の課題探究の状況に関する情報や課題を、双方で随時、情報交流し共有するように努める。問題が生じたとき、協議して対応する。	研修教員の課題探究を中核として、10年経験者研修を構成する校外各種研修(総合教育センター研修、地方教育事務所研修、大学研修等)の関係を構築するために、研修全体を見通したコーディネートを行う。	大学研修コースのねらいと研修教員の課題意識や関心のマッチング、研修教員の課題探究への支援を重視して、双方向コミュニケーションを重視したゼミ形式の研修を実践する。
	<b>適用期</b> これまでの課題探究の、実践レベル(勤務校の校内研修)での適用並びに問い直しと、学校全体の実践改善への貢献	課題探究の継続発展性、大学研修と校内研修の連続性の意義を双方で確認し、勤務校との情報交流を行いつつ、研修教員の実践に対する具体的なフォローアップの方略を共同で検討し、その具体化を図る。	大学研修との継続性の視点から、研修教員の勤務校と大学教員の仲介を担い、双方間の情報交流や意思疎通を支援する役割を担う。大学教員の校内研修への関与・協力に関する事後調査を行い、大学に通知する。	研修教員とのネットワークの継続発展としてフォローアップ研修を展開する。大学教員が研修教員の実践の具体的状況に赴いて、実際に関与し、協働的に実践研究に取り組む。
<b>評価改善段階</b> 教育委員会と大学の共同協議に基づく連携協力体制や研修カリキュラムの評価と改善	合同による教員研修改善ワーキングを開き、相互の事後調査の照合作業に基づいて、問題点の掘り下げを行い、今後の改善策を協議する。	研修教員対象の事後調査を行い、研修教員の課題意識と研修内容の関連性等の諸点にわたって、大学研修に対する要望をとりまとめる。	大学教員対象の事後調査を行い、研修教員の課題意識と研修内容の関連性等の諸点にわたって、問題点やそれに対する改善策を立てる。	

る。

計画期…教育委員会は、研修教員の評価及び研修計画について決定を行う。それらに基づいて、個々の研修教員が自己の課題探究を軸に研修を遂行できるように、研修の内容や方法や過程等に関して、彼らに対する支援の責務をもつ。したがって、課題探究型研修の中核となる大学研修コースの企画にあたっては、教育委員会と大学の間で、十分な情報交流や協議を行うことが必要である。

課題探究期…この期のねらいは、研修教員が自己研修として種々の研修の機会や場を開拓・活用するなかで、教師として形成蓄積してきた見方や考え方を問い直し、再構築や向上・転換を図ることにある。研修教員によるそうした自己研修の中核となる場として大学研修が位置付けられる。研修コースの目標・内容・方法をめぐって、研修教員と大学教員の間でマッチングを行うことが重要である。

適用期…これまで課題探究的に展開してきた研修をもとに勤務校での校内研修を進め、自らの課題探究の意味を実践レベルで新たに問い直す。また、教職経験10年という校内での中核的な立場から、これまで進めてきた研修の成果を学校全体の実践改善へと展開していくように努める。そのために、教育委員会を介して大学教員と校長の間で情報交流を行い、大学教員は研修教員とのネットワーク形成を図り、研修教員の勤務校訪問による実践参観や協議等を通して継続的発展的なフォローアップを図る。

③評価改善段階…これまで展開された校内研修や大学研修の成果等（研修終了後に行われる研修教員の自己評価、校長による研修教員の評価を含めて）に基づいて、教育委員会と大学の共同において、課題探究型研修を取り入れた研修カリキュラムの有効性や連携協力体制について分析・評価し、今後のカリキュラムの改善を図る。

(2) 10年経験者研修の展開イメージ

10年経験者研修のうち、長期休業期間等の研修を構成する各種研修（教育センター、地区教育事務所研修、大学研修等）の展開イメージを示すと、表2のとおりである。

【表2 10年経験者研修の年間の展開イメージ】

10年経験者研修の年間の展開イメージ(小・中学校の場合)  
【長期休業期間等の研修】(15日間)

〈共通研修〉		〈選択研修〉	
○総合教育センター等研修(2日間) 5月:オリエンテーション・研修教員への期待 ・大学研修について ・教職員の服務等 ※7月下旬or8月上旬:中堅教員としての学校組織 マネジメント等	総合教育センター 各教育事務所 在勤校	○各自の課題に応ずる研修 (4日間) ※7月下旬～8月下旬: (例として) ・県教委(総合教育センター)や 市町村教委・教育研究所が主催 する研修・講座から選択受講 ・教科に係る総合教育センターHP による研修 ・自己の課題に係る勤務校の研究 推進に関する研修等	在勤校・市町村 立施設等
○地区教育事務所研修(2日間) ※7月下旬～8月:教科指導等(各教育事務所の 計画に基づく)			
○研修計画作成(2日間) 5・6月:・研修計画全体の立案 ・大学研修の計画作成			
○大学研修:ゼミ形式研修コースへの配属(5日間) ※7月下旬～8月上旬:(初日)研修課題の具体化と、 その探究に向けての研修内容の協議・設定 ※7月下旬～8月下旬:研修課題に取り組む自主的探究 ※8月下旬～9月:(最終日)各研修コースでの発表と協議		大学 在勤校 等	

【課業期間の実践研修】(20日間 9月～12月)

「長期休業期間等の研修」を基盤として、各勤務校等での実践研修を実施する。

そのなかで5日間にわたって行われる大学研修コース(※最大人数7名とする少人数ゼミ形式)の展開イメージは、表3のとおりである。

【表3 大学研修の展開イメージ】

大学研修(5日間)の展開イメージ

第1日	同じコースに入った研修教員メンバーの自己紹介、オリエンテーション、課題意識や関心に対応した大学教員からのアドバイス、資料提供、大学教員との対話、同じコースに入った他の研修教員との談話。これらのプロセスのなかで、自らの研究課題や研究方法等をより具体的なものとする。
第2日   第4日	第1日目の協議にもとづく自主研修(第1日目のオリエンテーションにもとづく大学施設利用による調査研究活動、大学教員との個別相談、e-learningシステムを利用した連絡や相談、勤務校での資料調査や実践分析等)
第5日	各コース内での発表と討論(研修を通して学び得たことや今後の実践への取組の展望を中心に)

### (3) 課題探究型研修の中核としての大学研修カリキュラムの開発方法

こうした10年経験者研修の展開のなかに課題探究型研修を位置付けるとすれば、教職経験10年を背景とする研修教員の自発的で多種多様な課題意識や関心に対応しうる人的物的なリソースや環境が必要であり、大学（教育学部）はまさしくその担い手として、そのリソースや環境を活用した研修カリキュラムをデザインしなければならない。ここでは、岐阜大学教育学部のこれまでの実践（10年経験者研修が始まった平成15年度より現在まで5年間にわたって、長期休業期間研修のうち5日間程度を分担実施）を踏まえて、大学研修カリキュラムの開発方法について述べる。

大学研修カリキュラムの開発をめぐる教育委員会と大学の協議で留意すべき点は、双方のテリトリー意識を優先させて、教育委員会から大学に丸投げ的に委託するのではなく、様々なレベルにわたって、教育委員会サイドの意向と大学サイドの提供する大学研修のデザインとの摺り合わせを行うことである。ここでは、大学研修カリキュラムの開発にあたって、岐阜大学教育学部が岐阜県教育委員会との間で協議してきた主要な項目を挙げておきたい。そうした作業に完了ということではなく、継続的に行う必要がある。

#### ①教職経験10年に対応する目的の設定

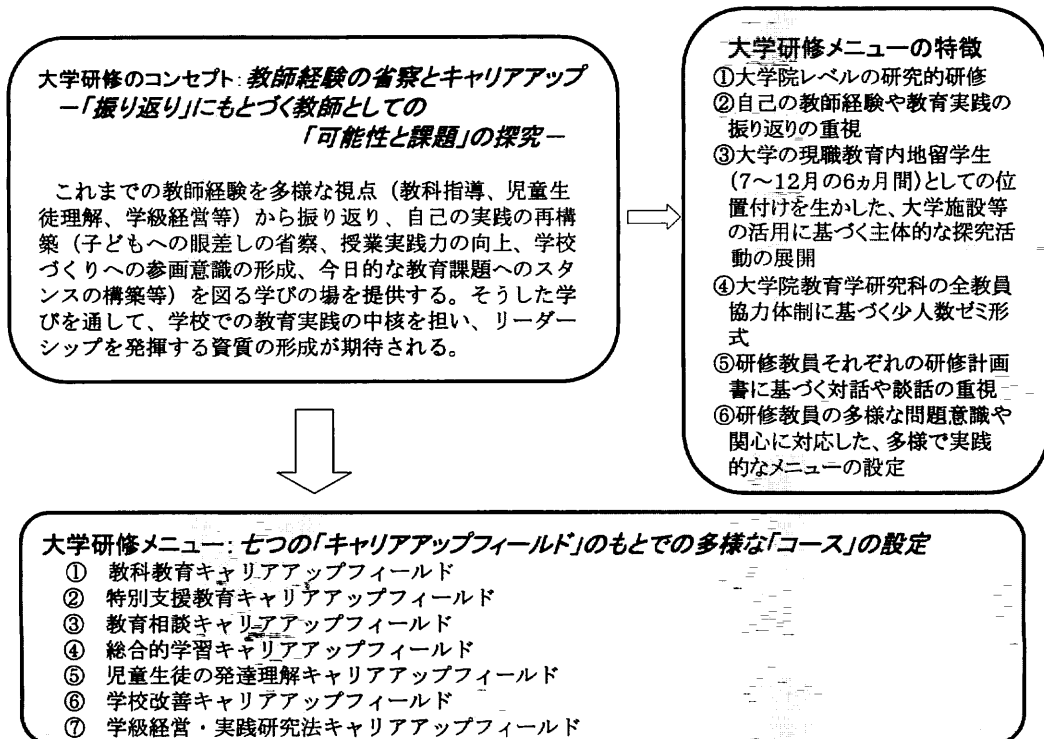
目的を構成するキーワードは、「自己省察」と「専門性開発」である。10年間の教職経験のなかで、自分なりの教育観、授業観、子ども観、実践手法等を形づくってきたが、これまでの経験に安住しがちな自分の在り様に気づき、問い直し捉え直し学び直しの必要性を感じている人は少なくない。自分の実践に行き詰まりを感じ、自信を喪失している人もいる。冒頭で述べたが、中堅期の入口にさしかかり、自己発達への自信と自己停滞への不安という相異なるものが生じている。大学研修では、研修教員の実践記録や実践論文をもとに、大学教員と研修教員、研修教員相互で談話や対話を展開する。大学教員の役割は、研修教員の実践経験を受け止めて、その意味付けの相対化や捉え直しや組み替えを促すための共同的なコミュニケーションの組織化、学術的理論的な枠組みや言葉の提示を行うことにある。

いうまでもなく、自己省察は、大学研修の段階で始まるものではなく、10年経験者研修の出発点から継続的に行われるものでなければならない。研修教員が自己省察に前向きなスタンスをとるためのポイントとなるのが、評価案（研修教員の自己評価と校長評価の照合）及びそれに基づく研修計画書案の作成をめぐって校長と研修教員の間で行われる談話や対話である。岐阜県教育委員会は談話や対話の場として面談を位置付け、研修教員の勤務校の校長に対して、研修教員との間で、これまでの教職経験を振り返り、そこから研修教員にとって関心のあるテーマや、この機会に是非とも取り組むことの必要な課題等を共同で丹念に掘り起こしていくように求めている。

このようにみえてくると、教職経験10年の段階に対応した研修目的としての教職の専門性開発には、二つの意味合いが含まれている。一つは、学校教育の中軸を成す教科教育の背後にある親学問の学問的専門的な知識や技法の理解や修得である。研修教員は、関心や必要を感じつつも、日常的な多忙や環境的な制約によって、学問的な探究から距離を置いたところで実践を積み重ねてきたと感じている。そうした彼らに対して、わずかな期間とはいえ、大学教員サイドから、教

科の背後にある学問的専門的知識や最新の学問的動向に関する情報の提供、学問への姿勢を喚起する知的刺激の提示等を行う。もう一つは、そうした専門性開発を支えるより根底的なものである。自らの実践経験を省察し、その省察に基づいて実践的知識を新たに継続的に生み出していく、そうした実践経験を自己省察することを可能にするスタンスや技法の修得としての専門性開発である。

こうした目的に照らし合わせて、大学の人的物的リソースを活用した大学研修カリキュラムをデザインする。岐阜大学研修の基本デザインは図2のとおりである。



【図2 岐阜大学研修の基本デザイン】

## ②二つのインタラクション及びマッチング

－教育委員会と大学，研修教員と大学教員の間で－

次に挙げるのは、教育委員会と大学の両者間、そして個々の大学教員と研修教員の両者間の関係性の構築に関わるものであり、研修の継続発展を大きく左右するものと言える。大学研修の準備段階における関係性の構築に関わって留意しておきたい項目を整理すると、表4のようになる。

そこに挙げたいくつかの項目に関して、研修教員の視点から、大学研修コースの選択決定の前と後に分けて、若干の説明を付しておきたい。



【表 4 大学研修の準備段階における二つのインタラクション及びマッチングの重要性】

大学研修の準備段階における二つのインタラクション及びマッチングの重要性  
 —教育委員会と大学、研修教員と大学教員—

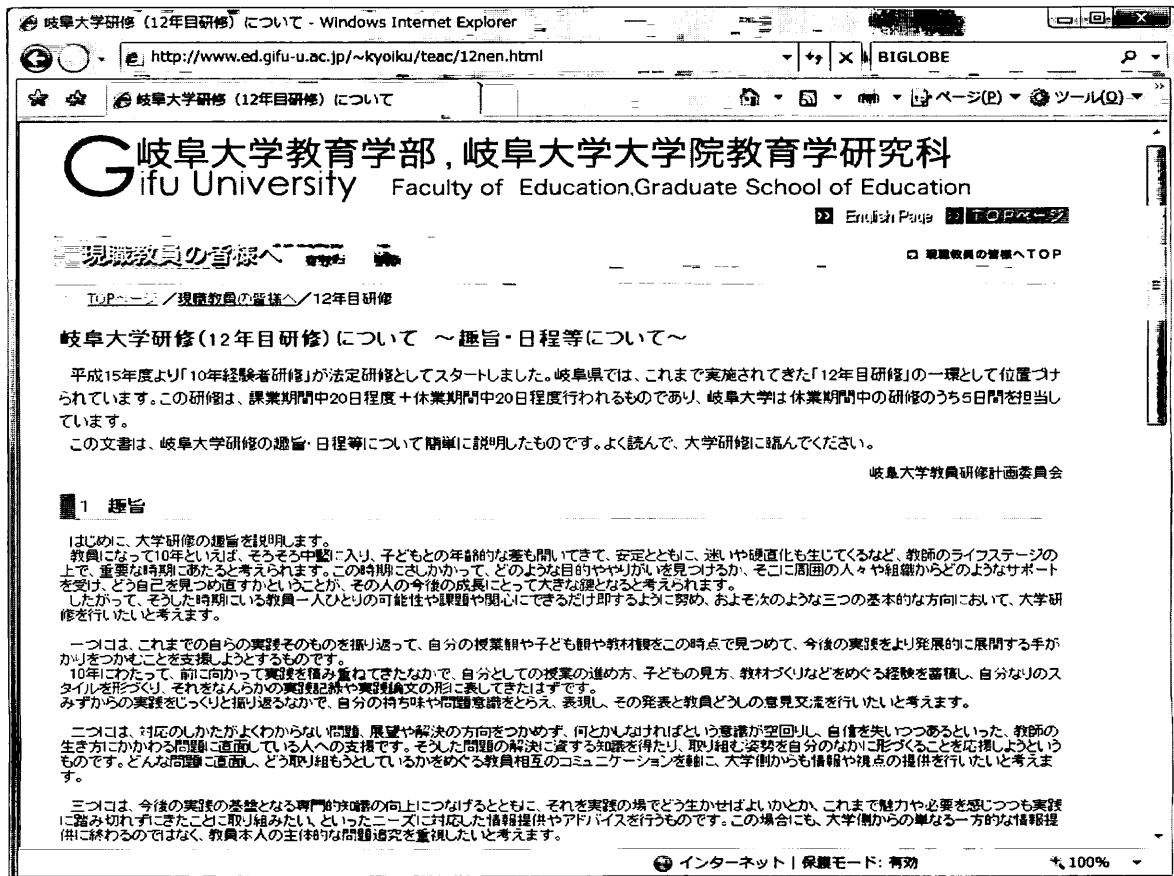
A. 教育委員会と大学:

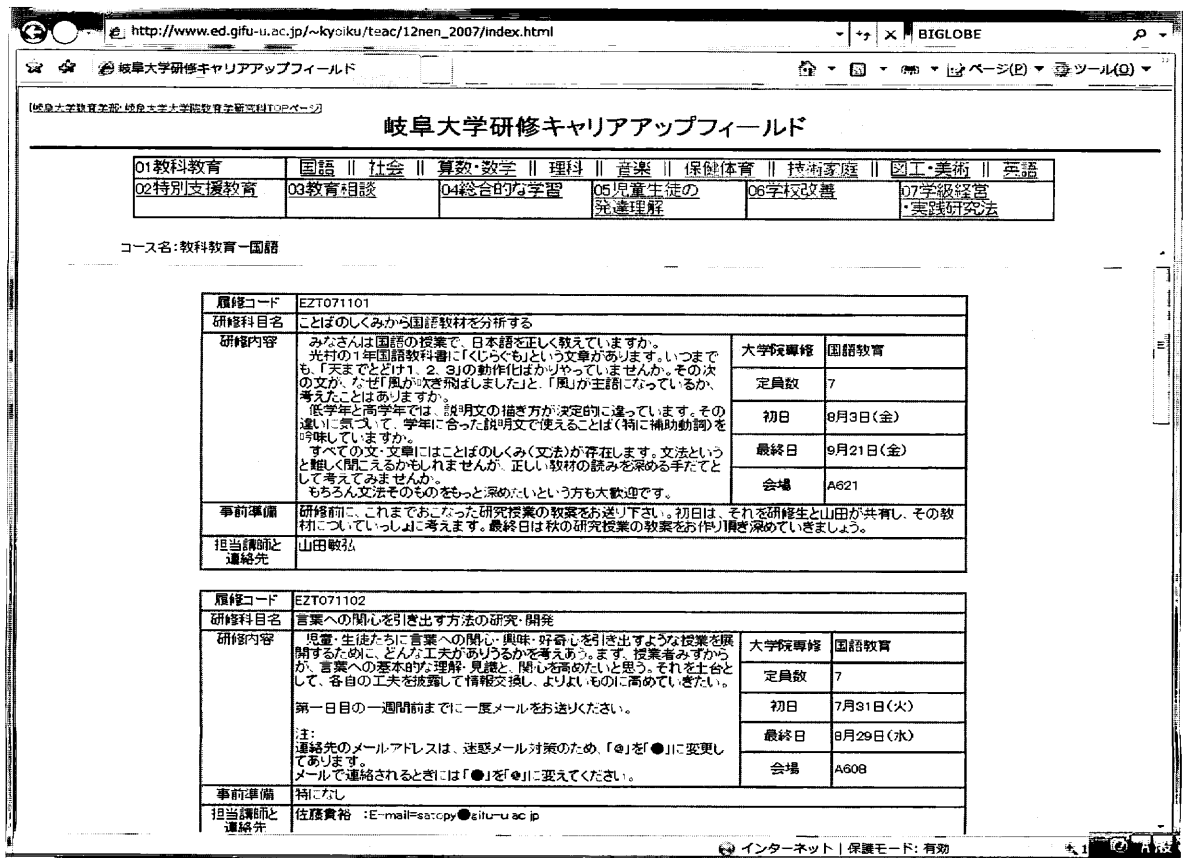
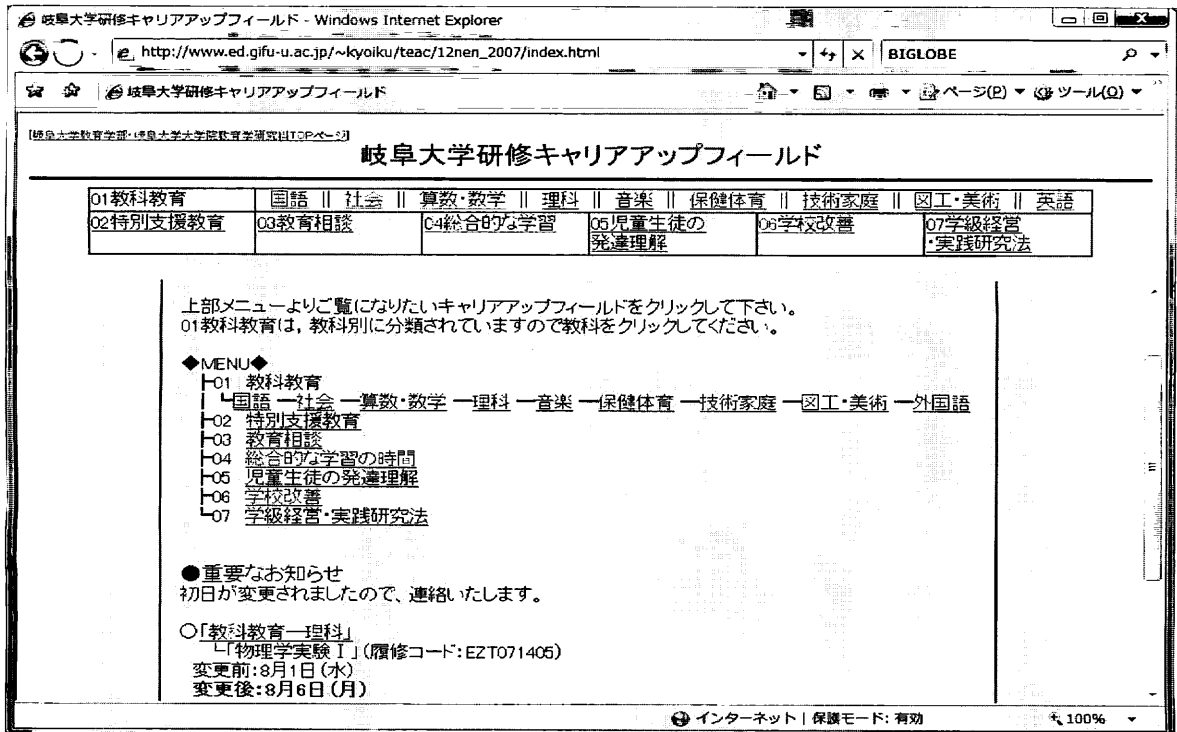
- 双方サイドの担当組織・部局(教育委員会サイド:教育研修課、大学サイド:教員研修計画委員会)の設置
- 研修教員を対象とする教育委員会主催オリエンテーションにおける大学サイドの関与と説明
- 教育委員会サイドでの研修教員の課題意識や関心の把握と大学への提示、それを手がかりとする大学サイドでの研修コース設定
- 研修教員の大学研修コース決定調整をめぐる双方間の手続きの構築と協議

B. 研修教員と大学教員:

- 連絡ツールの構築とそれに基づく事前コンタクト並びに打合せの展開  
 ～開設された研修コースと研修教員をいかに結びつけるか～
  - (1)大学HPで掲載する研修テーマ・研修内容・事前準備等の工夫
  - (2)e-Learningマネジメントシステムを活用した事前コンタクト
  - (3)研修教員・大学教員・教育委員会担当者が相談・対応を行うためのe-Learningシステム掲示板の開設

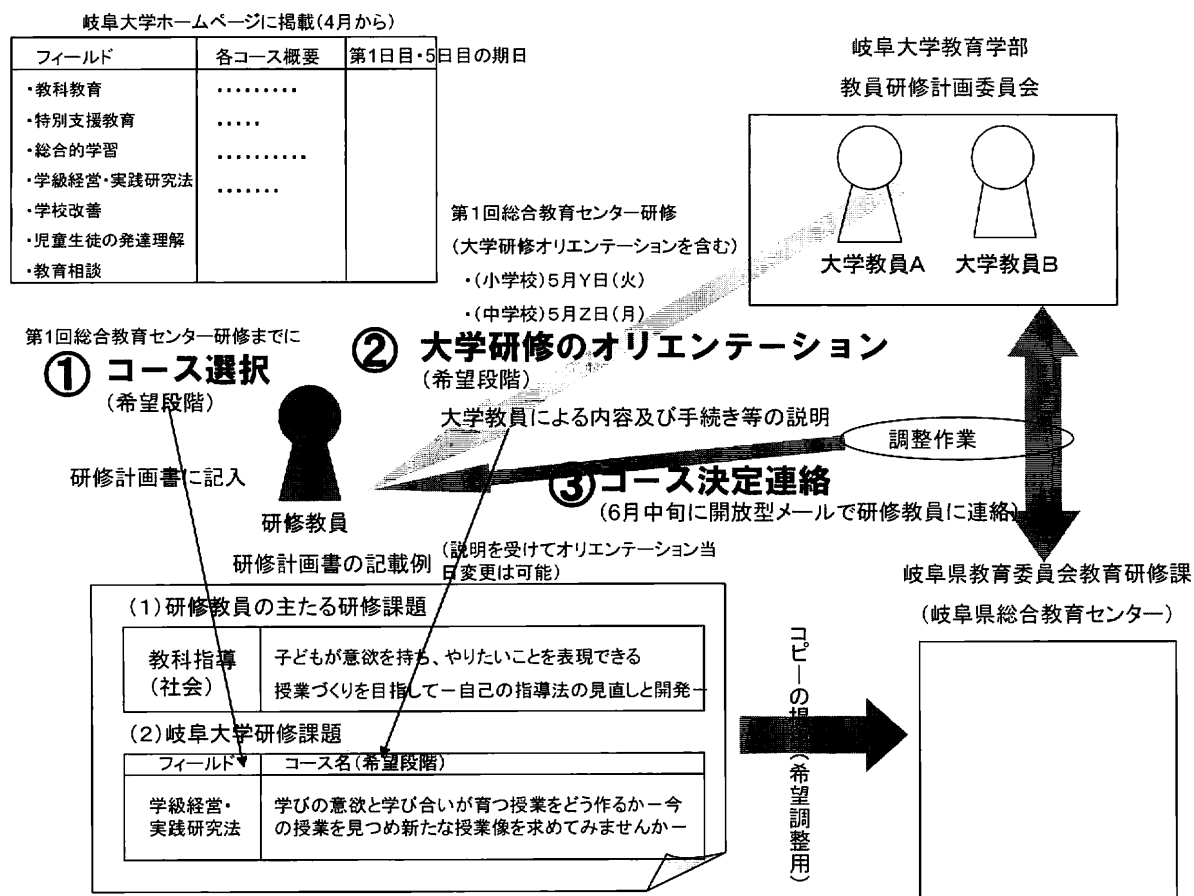
コース決定前の段階では、大学研修の目的等と共に、研修教員が自分の課題意識や関心との関連性を判断する手がかりとすることができるよう、研修コースに関する種々の情報を下図(図3)のように、大学HPで提供する。





【図3 事前に大学HPに掲載される大学研修コースに関する情報】

こうしたプロセスを経て、研修教員は、希望する大学研修コース（第一及び第二希望）を教育委員会に提出する。教育委員会は、コース定員数や研修教員の10年経験者研修全体の研修テーマとの関係性等を考慮しながら、大学との協議を踏まえて調整を図り、最終的なコース決定を研修教員に通知する（図4）。



【図4 岐阜大学研修コース決定までの手続き】

コース決定後の段階では、大学の e-Learning システムの活用を可能とするユーザ ID・パスワードが、教育委員会を介して、各研修教員に交付される。これらの交付を可能とするのは、教育委員会が研修教員全員を現職教育内地留学生として大学に一括申請し、それが認可されるという手順を通して、研修教員が大学の諸施設・設備を利用できることに基づくものである。こうして、大学研修が始まるまでに、研修教員と受け入れるサイドの大学教員は e-Learning システムを通して事前のコンタクトをとることができる。図5は、大学教員が e-Learning システムを利用して、事前に、自分のコースに入る研修教員に事前に自己紹介を行ったり、資料を送付している状況を示すものである。



【図5 e-Learning を利用した大学教員から研修教員への事前連絡】

### ③フォローアップ研修の展開（研修の継続性発展性）

課題探究とは本来、際限のないものである。その意味では、課題探究型研修は、フォーマルに設定された期間内で終了するものではなく、教師個人の課題探究を支援する契機として捉えられるべきであろう。したがって、研修教員と大学教員のネットワークが大学研修5日間終了後も維持され、さらに研修教員の勤務校を大学教員が訪問し、授業参観や研究協議をするといった新たな関係形成へと進展することが期待される。教育委員会は、大学教員と研修教員の勤務校を介する役割を担うことになる。教員研修の基本が、現場から離れたところではなく、研修教員が実践を日常的に営む具体的な状況や文脈を、研修を支える周囲の者が共有しようと努めるところにある、つまり「勤務学校を基盤とする研修 school based in-service education」にあることからすれば、そのような研修の継続性発展性は当然のものともいえる。現職教育内地留学生としての認定期間が7～9月を期間とする大学研修を越えて7～12月の6ヵ月にわたって設定されていることは、そうした大学研修の継続性発展性を支えるベースとなりうるものである。

### ④評価とそれに基づく教員研修改善ワーキング

大学研修カリキュラムの改善を図るにあたって、評価が欠かせないことはいうまでもない。評価の基本的な仕組みとして、大学教員による研修教員の評価と研修教員による研修コースの評価を大学と教育委員会でそれぞれに行い、両者の合同による教員研修改善ワーキングにおいて両者

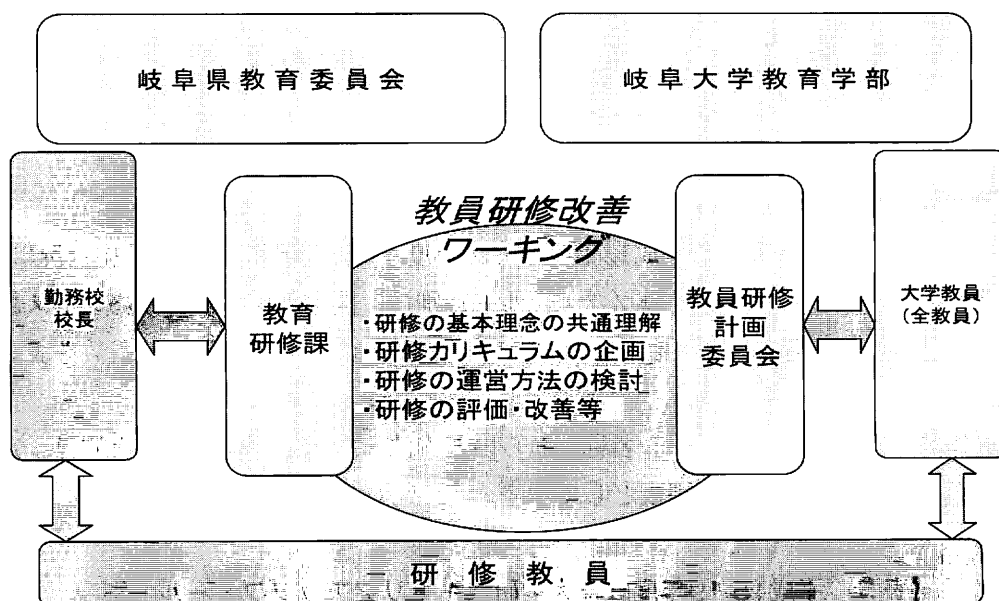
を照らし合わせて、今後の課題や展望を協議する。

以上、10年経験者研修における大学研修の開発と改善にあたって、大学と教育委員会が協議する内容項目を4点にわたって挙げた。

### 3. 開発組織

開発組織の要件としては、次のようなものが挙げられる。①教育委員会と大学の両者が10年経験者研修を業務とする部局あるいは専門委員会をそれぞれに設置する。②研修の全体（目的・内容・方法・評価等）にわたって両者が協議する場を設定する。③両者の部局あるいは専門委員会のなかに、日常的に連絡や意見交換等を行う担当者を位置付ける。

なお、岐阜大学教育学部と岐阜県教育委員会は、図6のような連携協力体制を組織している。



【図6 開発のための連携協力体制】

### 4. 課題探究を軸とする研修の展開方法の基本

大学における教員研修の展開方法として、次の二つのモデルを想定できるだろう。

一つは、研修関係資料を大学教員サイドで準備し、研修教員に提供し、それをめぐる内容説明と質疑応答を軸に展開される。研修教員は修得した知識や情報を実践の現場に持ち帰り、自らの実践の具体的な状況や文脈に合わせて応用することが期待される。

もう一つは、研修教員自身の実践を対象とした振り返り（自己省察）に重点を置き、研修計画書案の作成をめぐる校長との談話等に基づいて、自らの実践的課題や関心の把握に努め、その解決や探究に必要な考え方や知識を研修の場に求めるものである。大学教員は研修教員の実践的課題の探究に資すると考えられる知識や発想を準備・提起すると共に、研修教員がお互いの実践を協働的に考察し、教育観や授業観を磨き合う協議の場を組織して、自己省察を深めることをサポートする。

冒頭の図1に示したように、教員研修の展開方法に関して、10年経験者研修は前者から後者

への重点移動を求めているが、その転換は容易なものではない。研修教員への一方向的なレクチャーに自己の役割を限定せずに、彼らの課題意識を共有し、その課題の探究と解決のプロセスをサポートしようと努めるスタンスが大学教員に求められる。大学サイドでは、こうしたスタンスの形成につながるファカルティ・ディベロップメント（教員研修に関する大学教員の職能開発）を実施することが必要である。大学教員は、学生（学部学生・大学院学生）の課題意識を研究テーマへと発展させる指導の経験を蓄積してきたはずであり、その基盤に立ち、研修教員と大学教員の共同取組の実践のプロセスやその成果を発表し交流するといった大学研修に関するワークショップ（本誌第Ⅱ部4．岐阜大学教育学部教員研修フォーラム概要報告参照）の開催等の方策が有効であると考えられる。

## Ⅱ 開発の実際（岐阜大学研修の展開状況）

### －成果と課題－

以上のようにして開発してきた研修カリキュラムの実際の実施状況と、そこに見る成果と課題について、次に述べることにする。

#### (1) 開設準備された大学研修コースと実際の選択・実施状況

10年経験者研修がスタートした平成15年度から19年度まで5年間にわたる実施状況に関して、七つの専門性開発領域（キャリアアップフィールド）別に、開設準備された研修コース数、研修教員の希望に基づいて実際に開講された研修コース数、七つの領域別の研修教員数を表5として示す。

個々の具体的な研修コース（コース名称、ねらいと方法・内容、事前準備、実施日、定員数及び実際の人数等）一覧は、末尾に別表として示す。

【表5 平成15-19年度岐阜大学研修キャリアアップフィールド別  
コース数（準備・開設）と研修教員数】

実施年度	準備されたコース数					開設されたコース数					研修教員数				
	15	16	17	18	19	15	16	17	18	19	15	16	17	18	19
教科教育	72	79	76	76	65	63	59	62	52	52	212	190	193	159	150
特別支援教育	7	6	7	7	5	7	6	7	7	5	31	29	26	24	13
教育相談	6	5	5	5	2	5	4	5	4	5	33	22	16	10	7
総合的学習	18	15	14	13	12	12	10	12	10	7	43	30	25	19	11
児童生徒の発達理解	6	4	3	3	4	4	4	3	2	3	24	24	14	5	12
学校改善	7	6	6	6	5	6	4	4	3	0	14	15	10	6	0
学級経営・実践研究法	7	6	8	9	8	6	6	8	6	6	33	30	37	21	21
計	123	121	119	119	101	103	93	101	84	75	390	340	321	244	214

## (2) これまでの成果

これまでの成果について、岐阜大学教育学部が研修教員及び大学教員を対象に行ったアンケート調査、研修教員から岐阜県教育委員会に提出された大学研修報告書、岐阜大学教育学部発行『教師教育研究』1～3号に掲載された10年経験者研修に関する実践報告等に基づいて、研修教員及び大学教員の両サイドから列記する。

### ・少人数ゼミ演習形式による談話や対話の展開

少人数ゼミ演習形式（平成18年度1コース当たり平均2.85人）をとることは、研修教員にとって、大学教員はもとより同じコースで学ぶ他の研修教員との協働的な談話や対話を取り交わすなかで、あらためて自分の課題意識や関心を捉え直し発展させる契機となっている。また、大学教員にとって、現場教師一人ひとりの課題や関心や悩みと丁寧に向き合うことにつながり、学校現場の実践状況を具体的に知る貴重な場となっている。

### ・幅広い領域の設定による、研修教員の課題意識や関心への対応

若手から中堅への移行期にある研修教員は、自分の軸とする教科の授業実践や学級経営の実践を深めると共に、学年経営や学校づくりへの主体的な参画、若手教員への支援等にこれから踏み出す必要がある。平成15年度スタート当初、大学研修カリキュラムを構成する内容領域を教科教育に限定する構想が出されたが、教育委員会と協議して、研修教員の内面的状況や周囲の期待を想定し、合わせて七つの内容領域を設定した。研修教員が教科教育以外の領域を選択する割合は、平成15年度45%から19年度30%へと漸次的に減りつつあるが（前掲の表5参照）、相当の割合を依然として占めており、教科教育の領域に限定した場合と比べて、研修教員の多様な課題意識やニーズに対応したものとなっていると言えよう。また大学教員サイドからすると、幅広い領域を想定しているので、自分の専攻領域を基盤とした研修コースを自分のアイデアを投入して設定することができる。このことが、全大学教員による研修コースの準備がこれまで継続している一つの大きな理由となっていると言えよう。

### ・研修教員と大学教員のネットワークの継続とそれに基づく研究コミュニティの形成

10年経験者研修の年度期間中とその期間外に分ける。最初に年度期間内について記す。

#### 〈大学研修終了後のフォローアップに基づく研修教員と大学教員の共同論文・報告の発表〉

7月下旬から9月下旬にかけて実施される大学研修の終了後も、6ヵ月（7～12月）にわたる現職教育内地留学生としての位置付けを生かしながら、大学教員と研修教員の間で次のような研究コミュニティが生まれてきている。

岐阜大学教育学部はこれまで『教師教育研究』を4冊（本誌を含めて）発刊しているが、2～4号を構成する「大学教員と研修教員の研究コミュニティの形成」の項目に大学教員と研修教員の共同による研修報告や論文が毎号数本投稿されている。大学研修がフォーマルなレベルで終了した後、引き続いて両者間のネットワーク（課題意識や関心の相互交流や共有）を継続させ、実践課題をめぐる共同探究を展開させていると言えよう。

#### 〈大学教員による研修教員の勤務校訪問、研修教員の授業参観、両者間の共同協議〉

大学研修終了後の2学期に、大学教員が研修教員の勤務校とその教室を訪れ、授

業を参観し、授業後に共同的な考察を行う。こうした営みが毎年度10程度の研修コースで行われ、上記の共同報告・論文の多くの背景となっている。

《 e-Learning システム (AIMS-Gifu) やメールの活用による

10年経験者研修の課業期間校内研修 (教材開発等) に関する相談》

研修教員が、大学研修終了後の現職教育内地留学生の期間中に、10年経験者研修の課業期間校内実践研修の取組のことで、e-Learning システムやメールを介して、大学教員に相談を求め、大学教員がそれに対応する。

次に、10年経験者研修の期間が過ぎてからの展開について記す。この展開は直接には大学と教育委員会の連携事業の範囲外となり、一部に限られた展開であるが、今後の進展が期待される。

《元研修教員と大学教員の間での互恵的関係の形成》

10年経験者研修終了後の次年度以降に、元研修教員が大学教員に相談を求めたり、実践記録を送付してコメントを求める。大学教員が元研修教員の実践を自らの研究や指導学生の卒業・修士論文作成のフィールドとして位置付け、その考察から得た知見を元研修教員に還元する。

《元研修教員を仲介とする学校と大学教員の組織的な研究コミュニティの形成》

元研修教員が研究主任となり、大学教員に校内研修の取組に関するアドバイスを求め、さらに仲介者となって、大学教員が校内研修に参画する。

### (3) 今後の課題

相互に関連する課題が数多く残されているが、大学もしくは大学教員と研修教員の両サイドについて、主たるものを挙げる。なお、ここでは実務的財政的側面、免許更新講習との今後の関連付けについては言及しない。

#### ・研修教員による自らの研修課題の把握とその支援の在り方

大学研修に臨む研修教員のスタンスは様々である。10年経験者研修全体にわたる研修課題と大学研修コースとの照合を通して、大学研修でどんなことを追究したいかというビジョンを携えて臨む人もあれば、教えてもらうのを待っている受動的なスタンスの人もいる。研修の受け皿ではなく、研修のデザイン主体者であるという位置付けに戸惑いを持つ研修教員は少なくないであろう。それだけに、出発点としての研修計画案の作成にあたって、研修教員と校長の面談を契機とする自己省察と、それに基づく研修課題の構成が大きなポイントとなる。

この点は大学研修にも引き継がれなくてはならないポイントとなる。大学教員が研修資料を準備して研修教員に説明し、理解を求めるという展開にとどまらないで、研修教員の授業や生徒指導の実践そのものを考察対象とする省察を促し、その人固有の課題を掘り起こす段階を位置付けることが重要である。

#### ・事前準備段階における大学教員と研修教員のインタラクション・マッチング

研修教員の課題意識や課題を把握し、それに対応しうる研修コースを設定する営みは容易なものでないが、その改善を図り続けることが必要である。

大学研修終了後、少なからずの大学教員が研修教員の課題意識や関心に即したコースの



テーマ設定や研修内容を次年度以降準備する必要があることを挙げており、大学 HP に掲載される各研修コースは、研修のねらい、談話を重視した研修方法、事前準備、連絡先等の項目設定や記載内容に関して、これまでの経験の考察を踏まえて次第に整備されてきている。また、新しい試みとして、専門領域の近い複数の大学教員で幅広い内容を含む緩やかなコースをまず設定しておいて、大学研修初日に、それらの大学教員と研修教員との間で面談を行い、どの大学教員の担当が適しているかを相談して決めるというステップをとる動きも出てきている。

事前準備段階として、研修教員と大学教員の相互連絡や打ち合わせを行うことが重要な決め手となる。そのための一つのツールとして、大学は e-Learning システム (AIMS-Gifu) を位置付け、利用を可能とするユーザ ID・パスワードを、事前に教育委員会を介して研修教員に交付しているが、十分に活用されているとは言えない。研修教員からの問い合わせを大学教員が受ける形での活用ではなく、大学教員から研修教員に働きかける形での活用を今後一層進める必要がある。

そのほかに、大学研修に内在するというよりも、大学研修とその外側の状況との関係から生じているものとして、研修教員の多忙さのなかで、自らの研修課題との関連性よりも出席可能な日程を優先して、研修コースを選択せざるを得ないような状況も生じている。教師の課題探究の連続性という視点からみて、教育委員会との協議に基づいて解決すべき課題である。大学教員の多忙さも、重要な検討課題である。10年経験者研修以外の講習や研修を並行して担当している教員もあり、今後、相当な数の教員が受ける免許更新講習の実施が求められるなかで、教員研修関連の業務の全体的なシステムの構築を図らなければならないと考えられる。

別表 平成19年度岐阜大学研修（10年経験者研修）コース一覧

No.	コース No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先（※省略）	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
1	01 教科教育 国語	EZT071101	ことばのしくみから 国語教材を分析 する		国語教育	みなさんは国語の授業で、日本語を正しく教えていますか。 光村の1年国語教科書に「くじらぐも」という文章があります。いつまでも、「天までとどけ1, 2, 3」の動作化ばかりやっていませんか。その次の文が、なぜ「風が吹き飛ばしました」と、「風」が主語になっているか、考えたことはありますか。 低学年と高学年では、説明文の描き方が決定的に違ってきます。その違いに気づいて、学年に合った説明文で使えることば（特に補助動詞）を吟味していますか。 すべての文・文章にはことばのしくみ（文法）が存在します。文法というと難しく聞こえるかもしれませんが、正しい教材の読みを深める手だてとして考えてみませんか。 もちろん文法そのものをもっと深めたいという方も大歓迎です。	研修前に、これまでおこなった研究授業の教案をお送り下さい。初日は、それを研修生と共有し、その教材についていっしょに考えます。最終日は秋の研究授業の教案をお作り頂き深めていきましょう。	7	3	8月3日 (金)	9月21日 (金)
2		EZT071102	言葉への関心を引き出す方法の研究・開発		国語教育	児童・生徒たちに言葉への関心・興味・好奇心を引き出すような授業を展開するために、どんな工夫がありうるかを考えあう。まず、授業者みずからが、言葉への基本的な理解・見識と、関心を高めたいと思う。それを土台として、各自の工夫を披露して情報交換し、よりよいものに高めていきたい。 第一日目の一週間前までに一度メールをお送りください。	特になし	7	4	7月31日 (火)	8月29日 (水)
3		EZT071103	国語力を育む古典の学習指導		国語教育	近年「ゆとり教育」が見直され、基礎・基本の定着が教育の大きな課題になってきました。とりわけPISA調査における「読解力」の低下ということもあって、「国語力」の充実が問題にされてきています。また、それとともに我が国の古典や言語文化を重視する姿勢も打ち出されつつあります。そこで、このコースでは、「ことばと文化」という視点から、古典（古文）学習のよりよき姿について一緒に考えてみたいと思います。 最初の時間に、話し合いの素材として、古典（古文）の指導に関する自分なりのアイデアを一点示していただきます（口頭でも、資料に基づいてでも結構です）。	古典（古文）の指導に関する自分なりのアイデア（口頭でも、資料に基づいても結構です）	7	1	7月24日 (火)	8月29日 (水)
4		EZT071104	小中学校における漢字指導	※1人で2コース担当	国語教育	漢字の指導は、漢字を覚えさせることを急ぐあまりに、ドリルを宿題にしたり小テストを繰り返したりというのをしがちである。しかしそれが、児童生徒に漢字習得に嫌悪感を懐かせる因にもなっているといえる。児童生徒に嫌悪感を懐かせずに効果をあげるには、指導に当たってどのような工夫が必要であるのか、それを考える。	特になし	EZT071104, EZT071105を合わせて7	4	7月25日 (水)	8月22日 (水)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
5		EZT071105	中学校における漢文指導		国語教育	中学校における漢文教育は、指導に充当できる授業時数の制約と教科書の採る教材とに問題があって、十分に効果を上げ得ているとはいえない。限られた授業時数のなかで、どのような工夫をして指導すべきか、それを考える。	特になし	7	0	7月25日 (水)	8月22日 (水)
6		EZT071106	国語科教育実践の探究		国語教育	本コース1日目では、受講者各人の持つ課題について、その解決の示唆となる文献等を貸与します。また、優れた国語科教育実践論文を講読します。 最終日には、貸与された文献から学んだ知見を紹介し、それに基づいて受講生同士で意見交換をします。また、この日も残りの時間で、優れた国語科教育実践論文を講読します。 両日とも、学習に変化を持たせるために、国語科教育関係のビデオを視聴する時間も設けたいと思います。	特になし	7	6	7月27日 (金)	8月24日 (金)
7		EZT071107	国語科における書くことの指導法		国語教育	作文教材を具体的に取り上げ、それに関する作文指導の議論を批判的に検討することを通して、書くことの教育内容に関する論点について検討を行う。そして、教材の学習材化を通して書かれた児童・生徒の作文事例に基づいて書くことの指導法のあり方について議論を行う。 (コースの初回の授業では、授業担当者が資料を準備する。)	特になし	7	2	8月3日 (金)	9月5日 (水)
8		EZT071108	子どもの意欲と達成感を引き出す国語指導～先生のためのブラッシュアップ講座～		国語教育	生徒の意欲を引き出すためには、まず教員自身が教材の魅力を確認しなければならぬ。研修では教科書の教材をとりあげ、とくに授業者がつまづきやすかった点や疑問点に対応して、教材の価値を引き出す新たな角度からの教材研究を行い、参加者の12年目のブラッシュアップに応えたい。さらに、＜教材の魅力→子どもたちの主体的な理解＞を支える教師の関わり方（発問・生徒の反応の受け止め・班活動指導）を、教材ごとに討議する作業も予定している。	事前にメールで、これまでやりにくいと感じた教科書中の教材を提案してください。ない場合は応募者の校種を勘案してこちらで決定します。	7	7	7月26日 (木)	8月30日 (木)
9	01 教科教育 社会	EZT071201	文化交流から見た歴史	※2名による共同担当	社会科教育	異文化の交流に注目することで、日本史および世界史の教育を再検討する。 主なテーマは、 ①東アジア世界と律令国家 ②大航海時代 ③開国と文明開化 である。	特になし	10	5	8月3日 (金)	8月24日 (金)
10		EZT071202	公民科教育（国際関係・政治学分野）の現代的課題		社会科教育	社会科の公民科教育における国際関係・政治学分野の問題を扱う。とくに湾岸戦争以後の国際関係や政治分野における現象の理解を深めることで、世界秩序の変動について同時代への批判的な視座の構築に努めることにしたい。	特になし	7	0	7月26日 (木)	9月28日 (金)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(所属略)	大学院専修	研修内容	研修種別	定員数	実際の 人数	初日	最終日
11		EZT071203	小学校の歴史学習	※2名による共同 担当	社会科教育	小学校における歴史学習の特色、歴史資料の活用、学習指導案の作成などについて、具体的に検討する。	特になし	11	3	7月25日 (水)	9月7日 (金)
12		EZT071204	歴史学の新しい流れと歴史教育		社会科教育	アナル派など欧米の新しい歴史学の傾向を紹介し、その歴史教育への導入の可能性を探る。	特になし	7	1	7月26日 (木)	8月29日 (水)
13		EZT071205	中学校地理的分野における教材および試験問題の評価		社会科教育	前半では、教科書教材を中心に学習指導要領に対する準拠性を考察する。とくに地理教育の基礎基本と発展学習の在り方について議論を深めていきたい。 後半では、高校入試問題を素材にして、地理的な見方や考え方を評価する方法について作題演習を併用しながら考えていきたい。	特になし	7	4	7月27日 (金)	8月31日 (金)
14		EZT071206	地域調査の実践		社会科教育	地域調査の意義、方法、実践について、今日の地域問題を題材に具体的に検討する。	特になし	7	2	7月23日 (月)	9月28日 (金)
15		EZT071207	中国の文化と社会		社会科教育	古代より日本文化に深い影響を与えてきた中国文化について学ぶ事により、日本の文化や思想をより深く理解する事をめざす。テーマは各自の興味の所在と力量に応じて決定したい。ただし、ある程度の中国文化に対する知見を有しているものが望ましい。	特になし	7	0	7月24日 (火)	9月18日 (火)
16		EZT071208	高齢社会と福祉教育		社会科教育	日本社会は急速に高齢化しつつある。 高齢社会の特質とそこにおける福祉教育とはなにかを考察する。	特になし	7	2	7月24日 (火)	8月28日 (火)
17		EZT071209	歴史教育の教材研究における史料とフィールドワークの融合		社会科教育	大学側では見本として、中山道河渡宿(岐阜市河渡)について、史料を提示し、あわせて現地にフィールドワークに出かけます。道沿いに並ぶ切り妻屋根商家、運送業者が建てた巨大な馬頭観音、洪水防止祈願の水神、そしてつい近年までここが渡河地点であった証拠の階段・通路など、史料を具体化させる方法を指導します。 受講者側では、自分の地域やテーマに合わせて史料とフィールドワークの融合を試み、その成果を発表し合います。	特になし	7	2	7月25日 (水)	8月22日 (水)
18	〇 教科教育 算数・数学	EZT071302	私立・国立・公立の中学校・高等学校の入試問題の考察		数学教育	研究したい学校を選び、その入試問題を読んで内容を検討する。 教科書や授業との関連も考える。 (算数・数学の問題を中心とする。)	特になし	7	2	7月27日 (金)	9月6日 (木)
19		EZT071303	算数数学教育における今日的な課題		数学教育	特に指導内容論教材開発から	特になし	7	7	7月30日 (月)	8月20日 (月)

No.	ファイル No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
20		EZT071304	算数教育から数学教育へー小学校から中学校へー	※1人で 2コース 担当	数学教育	小学校から中学校への内容・方法両面での変化をどう考え、指導にいかすか？	特になし	EZT071304, EZT071305 を合わせて7	6	7月23日 (月)	8月27日 (月)
21		EZT071305	数学教育ー中学校から高校へー		数学教育	中学校から高校へのつながり、連携のありかた。	特になし		1	7月25日 (水)	8月27日 (月)
22		EZT071401	2学期から使える理科教材・指導案(小学校)	※1人で 4コース 担当	理科教育	小学校の理科授業における指導力・実践力を高める研修を行う。 具体的には、小学校の理科授業のなかで、2学期に授業実践できる単元を選んで、教材開発や指導案の作成を行う。研修で開発した教材を用いて、授業実践を行い、有効性を検証する。授業の構想から評価までの取り組みを論文としてとりまとめることで、理科における授業設計のあり方や、指導法のスキルアップを目指す。	特になし	EZT071401, EZT071402, EZT071403, EZT071404 を合わせて7	0	7月24日 (火)	相談して 決定
23		EZT071402	2学期から使える理科教材・指導案(中学校)		理科教育	中学校の理科授業における指導力・実践力を高める研修を行う。 具体的には、中学校の理科授業のなかで、2学期に授業実践できる単元を選んで、教材開発や指導案の作成を行う。研修で開発した教材を用いて、授業実践を行い、有効性を検証する。授業の構想から評価までの取り組みを論文としてとりまとめることで、理科における授業設計のあり方や、指導法のスキルアップを目指す。	特になし		2	7月25日 (水)	8月21日 (火)
24	01教科教育 理科	EZT071403	楽しく学ぶ理科授業		理科教育	小中学校の理科授業について、興味・関心を高め、学びを実感できる授業の展開の仕方について研修する。研修にはweb教材「理科教材データベース」を活用し、身のまわりの自然を意識的に観察することで、観察力を高め、理科の指導力を高めることができるような研修を行う。具体的手立てとしては、研修する教員と協議し、課題探求を行う。	特になし		2	7月27日 (金)	8月30日 (木)
25		EZT071404	高等学校「理科総合B」		理科教育	高等学校で「理科総合B」を担当している教員を対象にした研修コースである。 この科目のねらい、内容について講義し、課題探求学習の指導の仕方について検討を行う。授業実践を通じて、指導法や教材などの評価を行って、この科目の指導力アップを目指す。	特になし		0	7月27日 (金)	相談して 決定
26		EZT071405	物理学実験 I	※2名による 2コース 共同担当	理科教育	小中学校理科・物理分野に関する基礎実験	特になし	EZT071405, EZT071406 を合わせて14	1	8月6日 (月)	8月28日 (火)

No.	フリールト	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
27		EZT071406	物理学実験Ⅱ		理科教育	高等学校・物理分野に関する基礎実験	特になし		0	8月1日 (水)	相談して 決定
28		EZT071407	校区の自然環境 (地学材料)に関 心をもたせるた めの教材開発	※1人で EZT074005 と2コー ス担当	理科教育	校区の自然環境を見直し、児童・生徒に自分たちの大地を意識させることで、自然のすばらしさと厳しさを学習するための教材開発をお手伝いする。あらかじめ校区にある岩石や地層などの地学材料をリストアップしておくことをすすめる。	あらかじめ校区にある岩石や地層などの地学材料をリストアップしておくことをすすめる。	EZT074005 と合わせて7	2	7月27日 (金)	8月29日 (水)
29		EZT071408	理科(化学)実験 の進め方		理科教育	理科実験をおこなうにあたっての条件設定の基本と、実際の実験レポートを題材にして実験レポートの書き方を考究する。 1日目:理科実験をおこなう際の心構えと実験条件で気をつける事項を講義する。その後、これからおこなう実験内容の説明をおこなった後に、実際に有機化学実験をおこなってもらう。 2-4日:自らおこなった実験のレポートを書いてもらうと共に、学校現場での実験遂行上の問題点を整理してもらう。 5日:実験レポートを提出してもらい、現場での理科(特に化学)実験の進め方について討論する。 追記 研修前に、研修生の学校で実験させたときの、児童生徒のレポートを一週間前までに1,2例提出していただくとありがたい。研修には、実験ができる服装をして出席してください。	学校で実験させたときの児童生徒のレポート(1,2例)、実験ができる服装	7	1	7月31日 (火)	8月21日 (火)
30		EZT071409	メダカに学ぶ生物学		理科教育	メダカの生理・生態、発生、飼育・繁殖方法、無秩序な生物の移入(メダカの放流も含む)が生態系にどのように影響を及ぼすのかについて講義形式で解説します。メダカを教材に、人工受精、発生、産卵行動などの観察法や解剖の方法を実習形式で学びます。要望があればフィールドに出てメダカをはじめとする魚の採集、種の同定なども実際に行います。その他、理科教育に関する相談、魚類や川の生き物の教材利用など相談にも可能な限り応じます。 期間中、受講生一人一人に課題を出しますので、レポートの提出を義務とします。	特になし	7	1	7月27日 (金)	8月25日 (土)
31		EZT071410	植物栽培・実験、 植物自然観察		理科教育	学校教育現場で栽培するのに適した植物材料を検討し、観察・実験のポイントを学ぶ。自然観察に適した植物材料の選定と観察の仕方を学ぶ。以上に加え、大学で進めているバラ科植物に関する研究について紹介する。	特になし	7	2	7月27日 (金)	8月24日 (金)

No.	ファイル No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先 <small>(※省略)</small>	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
32		EZT071411	植物に関する教材 開発		理科教育	生物分野の教育を行う場合、様々な方面から、様々な生物を教材にして教えることにより、より深く理解させることができると思う。また、教科書や指導書にはない教材を多数持っていて、臨機応変にそれらを使うことが、生徒の興味を引き出すために重要であると思う。このコースでは、特に生物分野を苦手とする先生を対象に、身近な植物を用いた教材の開発を目指す。 植物学の中で教材開発を望む分野を明確にしておいて下さい。	植物学の中で教材開発を望む分野を明確にしておいて下さい。	7	1	7月27日 (金)	8月31日 (金)
33		EZT071412	結晶成長の顕微鏡 観察と大気中の現象		理科教育	水蒸気からの液化、氷の成長、水溶液からの氷の成長の様子や水溶液からの塩結晶成長の様子を顕微鏡で観察する。この顕微鏡観察から中学校1分野「水溶液と再結晶」、小学校6年「水よう液の性質」、小学校4年「水のすがた」の教材を考える。またこれら小さな実験室内での現象と大きな実験室である大気での雲、雪、台風の現象を結び付けた総合的な教材を考える。	実際に実験をするので、動きやすい服装で来て下さい。	7	2	7月24日 (火)	8月31日 (金)
34		EZT071413	理科学習における 内発的動機付け		理科教育	小学校や中学校理科教材の特性に応じ、教材の誘因と学習者の動因のいろいろなタイプを例示する。その上で、理科の学習活動をしくみ際にどのような内発的動機付けの方法が想定されるかを検討する。特に、認知的不調和が学習に及ぼす効果についての研究成果を示しながら、内発的動機付けの効果について論究する。	特になし	7	1	7月28日 (土)	8月28日 (火)
35		EZT071501	楽しくピアノを弾 くってどうい うこと?		音楽教育	10分程度の作品をできるだけ暗譜で演奏できるように練習してきてください。音を聴くことが、理解でなく味わうことが音感を磨く始まりとなります。	特になし	7	2	7月25日 (水)	8月29日 (水)
36	01 教科教育 音楽	EZT071502	作曲ならびに創作 教育		音楽教育	事前に提出された創作教育の問題点を様々な角度からの考察により解決を図る。	創作教育の問題点をまとめて提出する	7	1	7月27日 (金)	8月22日 (水)
37		EZT071503	音楽の指導が苦手 な先生のための 110番	※1人で 2コース 担当	音楽教育	「ピアノが弾けないのに音楽の授業をしなくてはならなかった」「中学校で音楽専門でないのにクラス合唱を指導しなくてはならない」「音楽の教科書をどう指導していいかわからない」など、音楽の指導に苦手意識を持って見える先生、音楽の授業はピアノなどの演奏技術だけで決まるものではありません。これから自信を持って音楽の指導ができるように、それぞれの先生方のもつ課題に対応した研修内容を展開します。	特になし	EZT071503, EZT071504 を合わせて7	4	7月31日 (火)	9月4日 (火) ※相談に 応じます

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(姓省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
38		EZT071504	「音楽をつくって表現する」領域をどう指導するか		音楽教育	「音楽をつくって表現する」は、学習指導要領に示された創作領域の指導内容ですが、その指導方法についてはまだまだ困ってみえる先生方が多いようです。しかし、中教審の芸術専門部会でも、今後ますます重視される方向にあります。このコースでは、「音楽をつくって表現する」をどのように指導すればよいかお困りの先生方に、豊富な先行実践例を示しながら、各自の力量に応じた指導のあり方を考えていただくことを目的とします。	特になし		2	7月31日 (火)	9月4日 (火) ※相談に応じます
39		EZT071505	声楽における発声指導法		音楽教育	声域を通し斑の無い響き、明るく澄んだ音色、確かな音程等を求めるとともに、各個人の長所を伸ばす発声、歌唱指導を理論と実践を通じ行う。	特になし	7	6	7月24日 (火)	8月21日 (火)
40		EZT071506	教材研究と授業改善	※1人で 2コース 担当	音楽教育	授業の内容を教材研究、指導方法の視点から研究する。教材曲の成り立ち、歌詞の内容などを分析研究することにより、指導を具体的に考えていく。 題材と教師、教材と教師、教材と児童生徒、など様々な角度から授業の在り方、方法などの改善するきっかけを探ろうとする。	実践記録などをもとに具体的な課題を設定すること。	EZT071506, EZT071507 を合わせて7	4	7月30日 (月)	10月10日 (水)
41		EZT071507	器楽指導		音楽教育	小学校における器楽指導の奏法、演奏指導、授業計画に関する問題点。また中学校における器楽指導の問題点。小中学校における課外活動の器楽指導の問題点などを実践的に研究する。 器楽合奏活動をアンサンブル（共同作業）の視点から考察したい。	実践記録などをもとに具体的な課題を設定すること。		1	7月30日 (月)	10月10日 (水)
42		EZT071508	岐阜の音楽芸能		音楽教育	ねらい：自分の身の回りにある音楽・芸能について知る。 内容の概要：自分の住む地域社会でみられる音楽・芸能についてフィールドワークを伴う参加型調査を行い、その地域についての体験的理解を深める。民俗芸能も含めたあらゆる音楽・芸能が本調査の対象になり得る。（ただし例外もあるので、具体的には担当者で相談の上決定。）	対象とするその地域についての基礎的な事柄を把握しておく。例として人口構成、産業などの統計的データや歴史などがある。またすでに調査を希望する対象が存在するならば、その音楽・芸能について概略的な事柄を説明できるようにしておく。	7	0	7月24日 (火)	10月3日 (水) (※無理なら9月30日)



No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
43	01 教科教育 体育	EZT071601	ビジュアルトレーニング ～ボール運動や球技を題材にして～		保健体育	部活動や教科体育によって児童生徒の技能の向上を図るためには、体力や技術の向上を図ることは勿論のこと、その運動を行なう意義やルールといった概念的知識の他に、実際の活動場面で必要とされる状況把握、状況判断といった知的能力の育成が重要です。しかし、その場その場の状況を把握し、適切な判断をしてプレーしていくための情報処理能力、とりわけ情報の大半を占める視覚情報に関する測定や評価はまだまだ試行錯誤の段階ではないかと思えます。 このコースでは、スポーツビジョンと呼ばれる視機能に関する概略、測定の実際、各種スポーツにおけるビジュアルトレーニングの実際について、先行研究、先行実践の資料を基に学習します。	特になし	7	5	7月26日 (木)	9月25日 (火)
44		EZT071602	器械運動の指導方法		保健体育	器械運動における技・技術の指導方法を検討するものです。もしこの研修を希望したい者は、技ができない子どもの動きやできる子ども動き(ビデオ撮影に際し、父母の承諾を得て下さい)をビデオ撮影して頂きたいと思えます(問題点を確認できる、動きの映像が欲しい)。ビデオ撮影に際して、カメラを三脚に固定して真横から、シャッタースピード1/250秒以上の条件でお願いしたいと思います。さらに、実技ができる準備もお願いしたい。	技ができない子どもの動きやできる子ども動きをビデオ撮影(※ビデオ撮影に際し、父母の承諾を得て下さい。またカメラを三脚に固定して真横から、シャッタースピード1/250秒以上の条件でお願いします。)、実技ができる準備	7	3	8月3日 (金)	8月28日 (火)
45		EZT071603	発育・発達段階に応じた体力トレーニングについて		カリキュラム 開発	今日、全国的に子どもの体力低下が指摘されており、子どもの体力向上のための施策が種々図られています。このコースでは、学校で行われている体力つくりの実践例を参考にして、最近のトレーニング理論の視点から体力つくり運動の内容を再検討しながら、学校で実践可能な新しい体力トレーニング(体力つくり)の方法を検討していきます。 このコースに参加される方は、体力つくりの実践例を持参されることを希望します。	体力つくりの実践例を持参されることを希望	7	1	7月30日 (月)	8月22日 (水)
46		EZT071604	球技(ボール運動)の学習指導と体力・運動能力向上について		保健体育	球技(ボール運動)における学習指導の課題を整理し、体力・運動能力向上をねらった教材づくりや授業方法について検討したい。前半(1・2日目)では、担当者と受講者双方で資料を準備し、積極的なディスカッションを踏まえ授業のイメージを定めたい。後半(3～5日目)では、本コースで得られた知見や情報をまとめてもらい、その成果を指導案として提示していただきます。	特になし	7	7	7月23日 (月)	9月18日 (火)

No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先 <small>(※省略)</small>	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
47	EZT071605	剣道指導法		保健体育	初心者、初級者を対象とした剣道指導法について、現場での指導上の問題点を踏まえながら検討を行う。研修には平成15年に県スポーツ科学トレーニングセンターが作成した剣道指導の手引き、教育剣道の科学（大修館書店）を使用する。また、熱中症の予防、剣道運動における酸化ストレスについても最近の知見を含め取り上げる。	特になし	7	1	7月30日 (月)	9月14日 (金)
48	EZT071606	表現運動・ダンスの指導について		保健体育	表現運動およびダンスの指導に関して、過去の教育実践について問題と課題を検討する。さらに、リズムダンス、創作ダンス、即興表現などを取り上げ、動きの探求を通して教師自身の動きの開発を目指す。	特になし	7	2	8月9日 (木)	8月20日 (月)
49	EZT071607	体育活動（授業・行事等）に関する整理と探求		保健体育	学校体育活動において、今までの実践をもとに、反省と批判を加え、問題点を見つけ出し、改善に役立つ観点と方法論を考察する。身体論的アプローチから、理論的背景を備えた方法論と評価を明確にしたより良い実践を探求する。	特になし	7	1	7月31日 (火)	9月11日 (火)
50	EZT071701	環境とライフスタイルの観点からみた家庭科の教材開発と評価法	※2名による共同担当	家政教育	本コースでは、研修課題解決の一方法として、「生活指標の活用」と「環境家計簿の活用」についての実践説明を行った後、各自の研修にそれをどのように生かすことが可能かを考えてもらい、発表と討論を行う。	特になし	14	0	7月24日 (火)	9月25日 (火)
51	EZT071702	家庭科教育ですすめる「保育教育」		家政教育	中学校・高等学校における家庭科教育において、家族と家庭生活、および、乳幼児の発達と保育・福祉の領域でおこなわれる教育実践を対象にする。 保育及び子どもの福祉について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させるような「保育教育」の指導計画の作成と内容の取り扱いについて、総合的に教育実践研究を行う。 とりわけ、直接に乳幼児と触れ合う保育体験教育や保育所訪問実習のプログラムの開発を行いたい。できれば、すでに、保育所・幼稚園等へ出向き、保育の体験を実施しているか、今後、そのような教育を進めていこうという方が望ましい。	特になし	7	6	8月3日 (金)	9月21日 (金)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
52		EZT071703	技術科教育における教材開発および指導と評価	※6名による共同担当	技術教育	このコースは技術科の定番コースであり、技術教育専修の担当教員が各々の専門の立場から、中学校技術・家庭科技術分野の教材開発および指導と評価に対して、研修者の希望に応じた問題点に焦点を絞り込んだ研修を個別対応の形態で実施します。なお、研修最終日には研修成果発表会を開催して研修員相互の成果結果の共有を行います。 なお、大学研修をスムーズに実施するために、受講希望の研修者は初日に各研修課題に関する資料又は研修計画書を持参してください。 (申込者：Y教員) 7月25日の開始時刻はY教員が1限目講義があるため、10時30分ごろになる見込みです。まだ変更があるかもしれません。	各研修課題に関する資料又は研修計画書	37	5	7月25日 (水)	8月29日 (水)
53		EZT071704	家庭科における実技・実習教育の可能性について		家政教育	参加者各々の立場から、主に家庭科の製作実習に関する指導法や教材についての交流を行った上で、子どもの意欲・関心・創造性を育てる製作実習のあり方について考える。参考資料として諸外国の実習課題の取り組みや、明治初期の日本の実技・実習教育の教材について紹介する。 また、僅かな時間であるが、明治期の女子向教科の中で学ぶ「おさいくもの」の製作体験を通し、創造性と実用性を兼ねた作品作りの可能性について考えていきたい。	特になし	7	6	7月31日 (火)	8月31日 (金)
54		EZT071705	伝えたい食は何？	※1人でEZT074013と合わせて2コース担当	家政教育	普段、子ども達に、自らの課題を見いだそう、豊かな生活を作り出す源は、と、授業の中で展開していると思う。その課題や生活を作り出す源を、教材化する前の資料の一つとなる「伝えたい食は何？」をテーマにした。 食分野で、家庭・学校・社会から受け継ぎ、子どもに伝えたいものは、どんなものですか？ 「伝えたい内容」「その理由」を振り下げてみよう、一緒に考えようが今年のテーマです。	特になし	EZT074013と合わせて7	3	7月25日 (水)	9月18日 (火)
55		EZT071801	鑑賞教育を考える		美術教育	「鑑賞教育」ということばが、いまいかなんですけど、これって結局、絵とか彫刻とかを見て、先生や生徒があれこれと言葉を出し合うことだと思うんです。だまって見ても仕方がない。それでは鑑賞にはなりません。まあ、お寺や教会へ行って、そこにある美術についてやかましく言うのはよくないけれど、教室で図版を見ながら言う分にはいいでしょう。なので、この研修では、とにかくあだ、こうだと美術作品について語り尽くします。語り明かすことはないと思いますけど。でもまあ、そんないきおい、です。	特になし	7	1	7月30日 (月)	8月21日 (火)

No.	プログラム	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
56	01教科教育 図工・美術	EZT071802	工芸と工作		美術教育	工芸と工作領域で応用できる素材、技法、題材等について基礎研究の指導を行う。とくに希望する受講者には、造形材料としての木に関する知識と木材加工の基本的技術を指導する。	特になし	7	0	7月30日 (月)	9月5日 (水)
57		EZT071803	ものの見方の違いによるさまざまな表現		美術教育	絵画制作では、表現しようとする世界をイメージすることが重要である。それには先ず、生徒にももの見方を教えることが必要となる。同じモチーフでも見方の違いによって、いろいろなイメージが生まれてくる。 このコースでは、さまざまな画家の作品を示し、研修生には作品制作もしてもらうことで、視点の違いによって多様な表現が生まれたことを理解する。	水彩絵の具一式、色鉛筆等(絵の具を扱うので、汚れてもよい服装で来て下さい。)	7	1	7月24日 (火)	8月29日 (水)
58		EZT071804	彫塑表現とその教材		美術教育	まずはじめに現在取り組んでいる図工・美術授業課題(特に彫塑、工作、立体造形)についての考察を行う。その後、実際の制作研修として、次の2つの内容のどちらかを行う。 1) 今後学校で子どもに対する教材として用いることのできるような表現方法や技術の研修。実際の授業を想定した彫塑教材の試作を行う。 2) 自身の表現力や技術力を高めるための研修。教師の立体造形における表現力を高めることと、彫塑における素材や道具の扱い方をさらに詳しく理解することを目的とする。 案1なら児童生徒ができそうな内容のものとし、案2ならもう少し本格的な技法も取り入れていこうと思います。 具体的には、焼き物粘土による鳩笛制作・土鈴等の制作や、粘土、石膏、テラコッタ、ピューター鑄造、木、大理石、教材用擬似石材等を用いた立体作品制作など、その他石膏デッサンなどでも良いです。興味のある素材や表現をいくつか考えて、候補を挙げて下さい。 事前にメール(※省略)で内容を協議し、もう少し具体的な計画を立てましょう。また研修には初日から作業着で来て下さい。 第1日目と第5日目が大学での研修日となっていますが、もし外の日にも研修として大学の施設を使いたいと言う希望がありましたら、ぜひ活用して下さい。	昨年度あるいは今年度を実施した図工・美術課題(特に彫塑、工作、立体造形)の授業概要がわかる資料。(児童・生徒作品、作品写真、授業計画表、指導案など)	7	0	7月23日 (月)	9月21日 (金)
59		EZT071805	デザイン領域の教材・指導について		美術教育	伝達表現では「何が伝達をするに値する情報か」、そして「どのように情報を整理し、伝達するか」を考えることが大切になる。色彩、かたちの工夫など視覚的なアイデアに偏りがちな指導を再検討する。「視覚伝達造形の本来あり方」を理解することと、「楽しい課題・楽しい授業展開、理解し易い資料提示・解説、など」を追究する。	特になし	7	0	7月31日 (火)	8月31日 (金)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先 <small>(※省略)</small>	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
60		EZT071806	図画工作科における授業研究 ―子どもの学びを創り出す―	※1人で 2コース 担当	美術教育	研修内容図画工作科の内容を、小学校の教科書や授業記録をもとにして研究する。特徴的な授業実践のビデオ記録を考察することによって、図画工作科における教材観・授業設計・授業展開・支援や評価の方法等について理解を深める。造形遊び、材料からの発想、自然体験、鑑賞教材、個性化・個別化、IT、地域素材、総合学習、ワークショップ、基礎基本の考え方、評価方法等について実践的にアプローチする。	特になし	EZT071807 と合わせて7	0	7月24日 (火)	相談して 決定
61		EZT071807	美術科における教材・カリキュラム研究 ―思春期の美術教育のあり方―		美術教育	現代の美術文化の状況や生徒たちの実態を踏まえながら、造形意欲を引き出す美術教育の内容や方法を検討する。中学生や高校生の造形表現の特性、知的好奇心についての理解を深めるとともに、特徴的な教材開発の事例についてビデオ記録や文献を通して考察する。表現と鑑賞の関連性、美術館やアーティストの活用、ワークショップ、工芸教材、映像教材、アメリカの美術教育、校種間の連携、評価方法等について取り上げる。	特になし		2	7月25日 (水)	8月24日 (金)
62		EZT071901	生徒の学習意欲を高める教材の内容と提示の方法		英語教育	生徒の学習意欲と学習効果の間には密接な関連性がある。そして、生徒の学習意欲を高めるための有益な方法の1つは教材の内容と提示の方法である。本コースでは楽しく、かつ、効果的な授業にとって不可欠である生徒の学習意欲を高める方法について、研修教員の実践報告を土台にしつつ改善をはかる。	特になし	7	7	7月31日 (火)	8月30日 (木)
63	01教科教育 英語	EZT071902	英語にとって教師とは何か	※1人で EZT074007 と合わせて 2コース 担当	英語教育	英語教師にとって基礎基本とは何かを多面的に考察する。詳しくは受講日初日に、授業論、教材論、教師論、評価論、音声論、文法論、実践研究論、生徒指導論などを、受講者の興味・関心・悩みに応じて研究計画を立てる。	受講者は自分の興味・関心・悩みなどを40字×30行程度にまとめて持参すること。できれば拙著『英語にとって教師とは何か』（あすなろ社／三友社出版）を読んでくれることが望ましい。	EZT074007 と合わせて7	0	8月3日 (金)	8月27日 (月)
64		EZT071903	Communicative Approach のための教材研究		英語教育	コミュニケーション能力の育成を目指した英語教育にあって、とすればコミュニケーション活動に重点が置かれがちであるが、コミュニケーション活動を支えていくための教材研究の在り方について、語彙・構文等の観点から考察していく。	特になし	7	4	8月6日 (月)	9月24日 (月)

No.	ファイル No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(所属)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
65		EZT071904	英語教育における 文学教材の利用法 について		英語教育	英米の詩や小説を具体的な例として教材に選び、その利用法について実践的に学ぶ。とくに今回は、英国の伝承童謡として知られる「マザー・グース」(MotherGoose)に焦点をあわせて、今後の授業に資するようにしたい。	特になし	7	1	8月3日 (金)	9月11日 (火)
66		EZT072001	学校教育の場から 社会生活への移行 支援		特別支援教育	学校卒業後の障害者の就労の場や生活の場など進路にかかわる問題について検討する	特になし	7	2	7月31日 (火)	8月29日 (水)
67		EZT072002	発達障害児の気にな る・困った行動 の理解と指導		特別支援教育	発達障害のある児童生徒に見られる「気になる・困った行動」について、「なぜ、そのような行動をするのか?」を読み解き、支援を考えます。初日は、当方で準備する行動理解アセスメントを用いて、行動の捉え方や分析方法を解説します。それを基に、受講者が担当する事例を整理し、5日目は発表・協議します。共通の様式を基に、「なぜ、行動が変容した(しない)のか?」の要因を探り、ともに学び合いたいと思います。	特になし	7	7	7月25日 (水)	8月27日 (月)
68	02 特別支援教育	EZT072003	小・中学校の特別 支援教育コーディネ ーターの意義と 役割	※1人で EZT074008 と合わせて 2コース 担当	特別支援教育	小・中学校の学級に在籍している発達障害の児童生徒の教育については、校内委員会と特別支援教育コーディネーターの役割が重要になる。特に、コーディネーターには、障害の理解、校内委員会でのリーダーシップ、特別支援学校(盲・聾・養護学校)や特別支援教育アシスタント等の地域での支援ネットワークといった多様な役割が期待されている。こうした実践的な取り組みについて学習を深めたい。現在、コーディネータをされている先生だけでなく、これからコーディネーターを目指す先生にも受講していただきたい。	特になし	EZT074008 と合わせて7	3	7月31日 (火)	8月27日 (月)
69		EZT072004	特別支援教育の授 業づくり		特別支援教育	子ども主体の授業づくりを展開するにはどのようなことを大切にしていけばよいのかについて、日々の授業実践を基に検討します。	特になし	7	6	7月27日 (金)	9月10日 (月)
70		EZT072005	発達障害児の理解 と支援(実習およ び事例研究)		特別支援教育	8月第2週頃に、岐阜大学特別支援教育センターで実施する柳戸サマースクールに2日程度実習参加し、ケースレポートを作成する。担当する子どもは、7~18歳までの特殊学級および養護学校に在籍する発達障害のある子どもである。最終日、ケースレポートをもとにカンファレンスを行う。	特になし	7	1	7月25日 (水)	8月24日 (金)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(東管略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
71	03 教育相談	EZT073001	問題を抱えた生徒の心理アセスメント		学校教育	不登校傾向、問題行動等何らかの心理的問題を抱えた生徒を客観的に理解するための心理アセスメントの学習。研修者がこれまでに経験した、また現在取り組んでいる事例に即して検討する。 特に性格テスト知能テストを中心とした心理テストの理解と活用を中心とする。	特になし	7	6	7月27日 (金)	9月28日 (金)
72		EZT073002	教育相談の事例検討とグループ箱庭体験		学校教育	ひとつは教育相談の事例検討を行う。受講者は自分が関わっている児童生徒の相談事例や指導事例の逐語録を第1日目と第5日目に報告してもらう。(事例の書き方については事前に問い合わせること。)その報告された事例について、受講者全員が各自で感じたことや考えたことを述べ、討議する。 その後、講師がコメントする。事例を検討することによって、児童生徒の問題の理解の仕方、彼らとの関係の取り方、話の聴き方、相談の仕方等を学ぶ。同時に、報告者自身の心理的課題にも触れ、自己を振り返ることにもつながる。 二つ目に、両日とも、研修時間の最後に自分自身の再発見のためのグループ箱庭を行う。そこでもまた自分自身を振り返ることになる。 状況によっては第3日目もグループ箱庭を実施するかもしれない。	特になし	7	1	7月27日 (金)	8月31日 (金)
73	04 総合的な学習	EZT074002	環境教育を行う上で何が必要か	※1人で 2コース 担当	カリキュラム 開発	環境教育はもの本質を見極めないと偏見やムードが先行する危険性をもっている。そのため教師は総合的な眼でものを見ていく必要がある。「焼畑」や「南アジアの人口稠密」、「日本の森林面積率」などを題材に、そこにある本質を解説していく。おそらく今までの正義と悪が逆転するのではないかと思う。この研修が今後の環境教育の教材開発などに役立つことを願っている。	特になし	EZT074002, EZT074003 を合わせて7	2	8月2日 (木)	8月30日 (木)
74		EZT074003	熱帯アジア風土論；環境教育と国際理解教育の接点を探る		カリキュラム 開発	中学校で行われた西アフリカの授業は、平均寿命の低さをキーワードにし、低教育水準、不衛生、貧困などに関する内容であった。「これでは生徒は西アフリカを暗黒の世界としか認識しないであろう。何故、この地域で一生懸命生きていく人々の姿を示さないのか？」が、そのときの感想である。熱帯アジアをフィールドに、その地域の人と自然の関わりを通して、国際理解とは何かを考えていきたい。また、見事な人と自然の関係性は環境教育の優れた教材になるかもしれない。	特になし		1	8月2日 (木)	8月30日 (木)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
75		EZT074004	総合的学習で身に 付ける学力		学校教育	総合的な学習の時間をどのように計画し、実施すれば確かな学力の育成に資することができるのでしょうか。[学力]について現在進行中の教育改革論議を通して理解を深めるとともに、PISA型学力のモデルとその計画への表し方、授業方法を検討し、総合的学習の新たな展開の在り方を探求する。	特になし	7	1	7月25日 (水)	8月28日 (火)
76		EZT074005	災害・資源・環境 をキーワードとする 総合的学習への 指針	※1人で EZT071407 と合わせ て2コース 担当	理科教育	自然科学分野の立場から、災害・資源・環境という人類共通の課題を児童・生徒の認識レベルで学習し、実感させるテーマをいっしょに開発する。日常の授業内容から複数のテーマ候補を挙げておくことをすすめる。	日常の授業内容から複数のテーマ候補を挙げておくことをすすめる。	EZT071407 と合わせて7	1	7月31日 (火)	8月30日 (木)
77		EZT074006	食生活を手がかり とした総合学習		家政教育	食生活における諸問題(健康、安全、エネルギー問題、ゴミ問題等)の一つを取り上げ、その問題が生じてくる原因を研究することによって、食生活を手がかりとした総合学習の教材を考案する。	特になし	7	0	7月23日 (月)	8月27日 (月)
78		EZT074007	英語にとって国際 理解教育とは何か	※1人で EZT071407 と合わせ て2コース 担当	英語教育	世間では一般的に、英語は国際コミュニケーションの道具であり英語を教えることイコール国際理解教育だと思われるが、果たしてそうなのだろうか。真の意味で英語教育が国際理解教育に貢献するためには何が必要か。本講では以上の点について受講者と一緒に考える。	受講者は、研究室HP「本館」に載せてある拙論「英語教師の三つの仕事・三つの危険」を読み、感想・疑問などを40字×30行程度にまとめて持参すること。	EZT071407 と合わせて7	0	8月3日 (金)	8月27日 (月)
79		EZT074008	小・中学校における 福祉教育・障害 理解教育の実際	※1人で EZT072003 と合わせ て2コース 担当	特別支援教育	小・中学校における福祉教育・障害理解教育を実施するためには、地域の福祉・障害者施設とのネットワークが必要となる。このコースでは、現在の高齢者福祉・障害者福祉の現状について理解を深め、具体的なネットワーク作りのワークショップを実施する。教師・児童生徒と高齢者・障害者が共に学び成長するための授業づくりについて検討する。	特になし	EZT072003 と合わせて7	2	7月27日 (金)	8月31日 (金)



No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先 <small>(敬称略)</small>	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
80		EZT074009	情報通信ネットワークの活用		カリキュラム 開発	教育利用を目的とした情報通信ネットワークサービスのデザインと構築、運用方法と管理および注意点について検討する。	インターネットを中心とした情報通信ネットワーク技術の基礎知識およびUNIX系システムに関する基礎知識を要する。なお、教育利用として検討しているネットワークサービスのアイデアがあれば構想をまとめておき、システム設計ならびに実装に備えること。	7	0	7月30日 (月)	相談して 決定
81		EZT074010	読書を考える		カリキュラム 開発	「読書を考える」というテーマで、自らの振り返りと教育現場への適用を併せて考えるコースです。現在、読書活動(朝の読書等)を行っている方、総合の時間等で読書を計画している方、読書が好きな方等の参加を期待しています。研修の準備ならびに課題として齋藤孝著、「読書力」(岩波新書)をまずは読んでおいてください。	研修の準備ならびに課題として齋藤孝著、「読書力」(岩波新書)をまずは読んでおいてください。	7	2	7月30日 (月)	8月27日 (月)
82		EZT074011	南極越冬観測と地球環境教育カリキュラム開発		カリキュラム 開発	「地球規模の環境変化」、「南極の暮らし」などを通じた地球環境変化の学習 内容の概要： 第46次南極地域観測隊における南極の自然、動物、生活、観測などの写真・映像の資料を用いて、南極から見た「全地球規模の環境変化」、「南極の暮らし」などについての環境教育の指導演を作成する。この指導演に従った授業では、教室と南極昭和基地をTV会議システムなどで接続して、生徒たちに「南極の今」をテーマにして環境学習を実施して、地球環境変化の学習を促す。 準備しておくこと： 「地球規模の環境変化」についての資料収集 理科、社会などの教科書に掲載されている「地球規模の環境変化」についての調査 持ってくるもの等：パソコン	「地球規模の環境変化」についての資料収集・理科、社会などの教科書に掲載されている「地球規模の環境変化」についての調査・パソコン持参	7	0	7月23日 (月)	9月25日 (火)
83		EZT074012	情報メディアを活用した教材開発		カリキュラム 開発	校内ネットワークやマルチメディアコンピュータを活用して、教科あるいは総合的学習の時間で使用する素材・教材の収集や、デジタル教材・Web教材とそのプレゼンテーションの工夫を検討する。また、個別学習を実現するe-Learning教材、CAI教材等の開発や、それらを用いた授業開発について検討する。	特になし	7	2	7月30日 (月)	9月6日 (木)

No.	ファイル No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
84		EZT074013	地産地消で食(教) 育教材開発	※1人で EZT071705 と合わせ て2コー ス担当	家政教育	旬の身近な地域生産物の教材化の可能性を、教科書や学校給食の献立を利用し、さらに実際の毎日の食生活と合わせて探ることを研修目的とする。 今までに作っている、または新たに作った身近な食材をもちいた食育(食教育)や食物(調理分野)指導案を、持参してほしい。 指導案の中で行いたい課題や研修期間の到達目標などの具体化があると一緒に取り組みやすいと考えている。	食育(食教育)や食物(調理分野)指導案があったら持参してほしい。	EZT071705 と合わせて7	0	7月25日 (水)	9月18日 (火)
85		EZT075001	高機能自閉症・アスペルガー症候群を持つ生徒の理解と支援		学校教育	通常学級の中にいる軽度発達障害を持つ子どもとして、高機能自閉症やアスペルガー症候群をもつ子どもがいます。先生方が実際に関わっている(あるいは関わってきた)そういった子どもたちのことについて、A4・1枚程度のレポートを出していただきながら、それをもとに、その子どもの理解と支援について学習・議論を行います。	実際に関わっている(あるいは関わってきた)そういった子どもたちのことについて、A4・1枚程度のレポート	7	5	7月24日 (火)	9月25日 (火)
86	05 児童生徒の 発達理解	EZT075002	情報社会に参画する態度の育成を目指す情報モラル教育		技術教育	情報社会と言われるようになってから随分経過し、児童・生徒への食の影響が社会問題として取り上げられるようになってきています。情報社会に生きる児童・生徒は、学校教育で何を学ばなければならないのでしょうか。 本コースでは、情報モラル教育の先行事例を参考にしながら、各自が持ち寄る研究計画あるいは研究データを基に、情報モラル教育をどのように行っていくべきかを考えていきます。	特になし	7	1	8月17日 (金)	9月26日 (水)
87		EZT075003	脳の機能、行動から児童生徒を理解する		学校教育	近年、脳研究の成果を教育の場に生かそうとする動きがでている。研修では、脳の機能と行動との関連について学習し、児童生徒への指導や援助に役立てる(将来役立ちそうな)ことを模索する。例えば、不登校を睡眠リズムの乱れから理解してみる、学習等に関する脳の機能から授業を考えてみる、自閉症等の脳の知見に基づき児童生徒への理解を深めることである。取っ掛かりの資料を用意するので、各自で工夫・展開してほしい。	特になし	7	6	7月30日 (月)	8月30日 (木)
88		EZT075004	発達に伴う造形表現の変容理解と授業改善		美術教育	図工・美術での教材設定と授業のありかたについて、造形の発達特性理解による改善の視点を研究することにより鮮明にすること。	特になし	7	0	7月31日 (火)	9月25日 (火)

No.	フィールド	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先 <small>(敬称略)</small>	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
89	06 学校改善	EZT076001	学校改善プログラムを作る	※1人で 3コース 担当	学校教育	勤務校が抱えている学校運営や教育課程経営上の課題を検討し、その課題解決のための改善プログラムを考える。具体的には、学力低下に対応する学力形成のための教育課程経営、習熟度別学級編制の導入や運営の改善、T・T運営の改善、学校五日制の見直しプラン、教師の力量形成のための校内研修システムの改善、高等学校再編化プランなど。学校の制度や政策的次元の課題から日常的な学校経営的次元の課題まで、広くさらに具体的に問題点を検証するとともに、これからの勤務校の学校改善の方向を実践的に構想する。指導例：「岐阜県立岐阜商業高校の生き残りプランを考える」「岐阜県立岐阜高等学校の学校改善プラン」「岐阜県立郡上高校農業科の新しい教育課程経営」「岐阜県高等学校の再編化プラン」「小学校と学区社会の連携のための実証的研究」など。	特になし	EZT076001、EZT076002、EZT076003を合わせて7	0	7月30日 (月)	8月31日 (金)
90		EZT076002	学校評価案を作る		学校教育	多くの学校の課題とされている学校評価の検討を行う。学校評価は、大きくは自己評価と他者評価あるいは内部評価と外部評価の違いにより、さまざまな種類の学校評価に分かれる。しかし、現在導入されている学校評価は「自校評価」と呼ばれる自己評価としての内部評価が大半であり、その内容や評価基準さらに機能については課題が多い。ここでは、学校評価を大きく保護者による外部評価、教師による内部評価さらに子どもによる授業評価などを中心に検討し、効果的で実践的な学校評価のプログラムを作成する。具体的には、受講生の勤務校の現在の学校評価の問題点や改善点を検討し、その改善の方向をかんがえる。指導例：「小学校における保護者の学校評価」「学級経営改善のための生徒のHR評価」「中学校における教師の同僚評価の方法」「生徒の授業評価の可能性」など。	特になし		0	7月30日 (月)	8月31日 (金)
91		EZT076003	スクールリーダーの役割を考える		学校教育	スクールリーダーとしての資質・力量形成のための課題や問題点を考えるとともに、これからの学校改革や学校改善のためのスクールリーダーの実践の方法論を検討する。具体的には、学年主任・教科主任・教務主任・生徒指導主事等の学校主任の役割を再検討するとともに、主任としての役割や行動様式を検討する。すでに主任職にある受講生は自省的に自らの主任としての実践を評価し、その改善の方法論を検討する。これから主任職につく受講生は自身の主任としての行動様式をイメージする契機となる。指導例：「校内研修改善のための研修主任の役割」「新しい教育課程経営のための教務主任の課題」「校長のリーダーシップ研究」など。	特になし		0	7月30日 (月)	8月31日 (金)

No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先 <small>(※省略)</small>	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
92	EZT076004	家庭、地域との連携による開かれた学校づくり	※2名による共同担当	カリキュラム開発	最近では学校、家庭、地域が一体となって、子どもの教育にあたる必要があるといわれており、全国各地で家庭、地域との連携による開かれた学校づくりの実践が展開されている。本コースでは、家庭、地域と学校の連携のあり方や学社連携・融合について実践的かつ理論的に検討し、受講生の勤務校における家庭、地域との連携による開かれた学校づくりの具体的な方策等を考究していく。したがって、受講生は、本テーマに関わる勤務校の関連資料を収集し、研修日当日にご持参いただきたい。	本テーマに関わる勤務校の関連資料	14	0	7月27日 (金)	9月19日 (水)
93	EZT076005	携帯電話について考える		技術教育	ある意味で現代の科学技術の粋を集めて登場した携帯電話（PHSを含む以下同様）は日本においては特に学生層に人気を集めつつ、世代を越えて爆発的に普及した。一方、児童・生徒を巻き込んだ携帯電話がらみの不幸な事件等も後を断たず、学校現場も種々の影響を受けないではいられなくなっていると考えます。 携帯電話を使用するにあたり、児童・生徒、学生、教員、子供を持つ親の立場で、矛盾のない一貫した姿勢（ポリシー）の確立が必要です。 下記参考資料をお読み戴き、ご自身としての、教員の立場、子供を学校にあずける親の立場、家庭での親の立場、それぞれについて考えられたメモをご用意くだされば幸いです。実状をお聞きしつつ共に考える機会になればと思います。昨年は高校3校と中学校1校でアンケート調査が出来ました。 参考資料： <a href="http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen29/finalreport.pdf">http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen29/finalreport.pdf</a>	特になし	5	0	7月27日 (金)	相談して 決定
94	EZT077001	子どもの学びの意欲と学び合いが育つ授業をどうつくるか—今の授業を見つめ、新たな授業像を求めてみませんか—	※1人で2コース担当	学校教育	他の子どもとの関わりの中で問題意識と追求を深める授業、見つけ気づく（問題解決）力を磨く授業のあり方、教師の授業力をきたえろといった課題に対して、自分の授業案や授業記録の省察に基づいて具体的に向き合いたいと考えます。教科は特定せず、総合的な学習も対象とします。1学期に授業のビデオ録画や録音記録をとってみてください。 事前準備として、1学期に授業のビデオ録画や録音記録をとってみてください。授業案や子どもの学びの記録等持参ください。 参考文献：前田勝洋・実践同人たち著『授業する力をきたえる』（黎明書房）2007年2月発刊	1学期に実施した授業のビデオ録画や録音記録、授業案や子どもの学びの記録等	EZT077001、EZT077002を合わせて7	6	7月25日 (水)	9月25日 (火)

No.	ユニット	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
95		EZT077002	授業の見方, 子どもの学びの見方を同僚と学び合う校内授業研究の在り方		学校教育	現在の授業研究は, 計画にたくさんのエネルギーや時間をかける割り(指導案疲れ)に, 授業後の協議会は簡単に済んでいませんか。しかも, 参観者の質問に授業者が答え, 「反省」という名の授業者の自己弁護になって, まな板の鯉になりやすく, 人にあまり見せたくない研究授業になっていませんか。その一方, 子どもの学びの具体的な姿を語り合うことが少ないようです。ちょっと無理しつつ(あまり無理しすぎないで), 楽しい教師の学びのかたちを求めてみましょう。 事前準備として, 1学期に授業のビデオ録画や録音記録をとってみてください。授業案や子どもの学びの記録等持参ください。 参考文献: 前田勝洋・実践同人たち著『授業する力をきたえる』(黎明書房)2007年2月発刊	1学期に実施した授業のビデオ録画や録音記録・授業案や子どもの学びの記録等		0	7月23日 (月)	9月25日 (火)
96		EZT077003	教育実践研究の進め方		学校教育	自らの教育実践を「研究」する際, 自らの主観や思い, 理想, 信念だけで突進するのではなく, 教育実践研究が蓄積でき, 共有でき, 伝承できるものにするために, 教育実践研究の進め方を心理学から見直し, よりよい教育実践研究の進め方を一緒に検討したい。	研修教員は初日に, これまでの自らの「教育実践研究」の1つをA4一枚程度に集約して持参のこと。	7	2	7月27日 (金)	8月24日 (金)
97		EZT077004	児童・生徒理解を援助する測定と評価		学校教育	社会の価値観, 生活観が多様になるに伴い, 生徒・児童を含む他者理解が難しくなっています。それは, 「私(自分)」が持つ他者理解のための枠組みでは対応しきれなくなっていることを示しています。そこで, その対応しきれなくなっている部分を補うための援助を考えようということが本研修の目的です。そのためには, 相手が出す情報を処理するためのいささかの技能が必要です。目的にあわせてどのように情報を収集し, どのように処理すれば効果的な援助手段になるのかを考えます。	特になし	7	5	7月27日 (金)	9月21日 (金)

No.	履修コード	研修コース名称	担当大学 教員氏名と 連絡先(※省略)	大学院専修	研修のねらいと方法・内容	事前準備	定員数	実際の 人数	初日	最終日
98	EZT077005	フリー統計ソフトRを使ったデータ分析入門		学校教育	<p>教育現場ではさまざまなデータが収集されることがある。それらを分析していく際に、統計ソフトを使う必要が出てくるが、市販の統計ソフトは高額で入手しがたい面がある。そこで、本コースでは、フリーウェアである統計ソフト「R」の利用方法を学ぶ。</p> <p>(<a href="http://www1.gifu-u.ac.jp/~s_oga/page036.html">http://www1.gifu-u.ac.jp/~s_oga/page036.html</a> 参考)</p> <p>各自のノートパソコンを持参してもらい、インストールから操作方法を学習する。なおRはWindowsのみでなく、Mac, Linuxにも対応しているが、担当者はWindowsしか体験がないので、Windowsのノートパソコンを持参してもらいたい。</p> <p>統計学そのものについて学ぶのではないが、最終日には、なにかのデータを分析した結果を各自が持ち寄り、それについて話しあうことにしたい。</p>	ノートパソコンを持参	7	0	7月27日 (金)	9月21日 (金)
99	EZT077006	ITを活用した授業改善・授業作りの方法		カリキュラム開発	<p>受講生それぞれの学校段階、教科、学習指導で改善したい点などを考慮しながら、静止画や動画などを何らかの形でデジタル化した素材（デジカメで撮影した写真などもふくみます）を用いて効果的な教材を開発する手法を学ぶ。実際に授業で活用することも含み、コースをすすめる。</p> <p>できるだけ容易に、しかも効果的に授業で活用する方法を主たる目的としているため、特に高度なITの知識は必要としない。デジタル機器利用未経験の方も歓迎します。</p>	特になし	7	2	7月30日 (月)	8月30日 (木)
100	EZT077007	問題解決型の道徳教育の理論と実践		学校教育	<p>児童・生徒の発達課題を理解した上で、学校生活における道徳的問題（いじめ、友人関係、非行など）を解決支援する道徳教育の理論と方法を研究する。児童・生徒が自ら課題を発見し、内省を深め、問題解決できるような道徳授業を構想し実践する。特にカウンセリング、エンカウンター、コーチングの技法を取り入れ、多様な道徳教育のあり方を探究する。</p>	特になし	7	5	7月31日 (火)	8月20日 (月)
101	EZT077008	情報教育のカリキュラムを考える		カリキュラム開発	<p>学校教育におけるコンピュータの利用は、「教育の情報化」という大きな枠組みから検討されますが、児童・生徒に対する指導は「情報教育」として推進されていることと思います。この情報教育に関するカリキュラムは各学校において具体的に開発されているものの、総合的な学習の時間における指導に限らず、教科教育との関係、学年発達を考慮した指導内容、近年の情報モラルに関する指導課題など課題は多岐に渡っているのではないのでしょうか。</p> <p>本コースでは、情報教育のカリキュラムについて、勤務校などの実態を資料として改善の視点と方向性について具体的に検討していきたいと考えます。</p>	特になし	7	1	7月27日 (金)	8月31日 (金)